

此○事○明○文○ヲ○キ○ニ○似○タ○ク○蓋○シ○第○四○百○三○十○四○條○偽○計○云○々○
下○ア○ル○ニ○モ○ル○キ○カ○而○シ○新○法○ニ○ハ○其○他○偽○計○ノ○文○字○ヲ○除○
テ○此○條○何○等○ノ○理○由○ア○ル○ヤ○之○カ○條○ヲ○置○キ○テ○已○ニ○欠○点○
ヲ○覺○ラ○シ○况○シ○ヤ○其○他○云○々○シ○文○字○ヲ○除○ク○ニ○於○テ○オ○ヤ○

○ 第二百四十四回 明治十四年六月

○ 第二款 通常ノ倒産ノ罪、詐偽ノ倒産ノ罪、詐偽
ノ倒産ヲ以テ財ヲ奪フ罪、其他詐偽ノ種類

第一節 通常ノ倒産ノ罪、詐偽ノ倒産ノ罪及

本款ニ於テ詐偽ヲ以テ財ヲ奪フ罪

本款ニ於テ詐偽ノ所ハ他ノ物ヲ掠奪スル事件中ニ在テ最モ輕
重者トス故ニ其刑輕

凡○シ○取○得○所○有○品○ヲ○強○竊○取○ス○ル○所○爲○ニ○避○ク○ル○能○ハ○
ル○者○ニ○リ○自○刃○ヲ○以○テ○脅○嚇○シ○又○ハ○夜○間○竊○ニ○忍○入○ル○者○ノ○如
キ○是○也○
本○款○詐○偽○以○如○キ○ハ○術○ヲ○以○テ○之○カ○故○ニ○必○ス○シ○モ○避○ク○ル
ト○テ○得○サ○ル○者○ニ○非○ズ○其○騙○セ○ラ○ル○ハ○畢○竟○已○シ○テ○本○注○意
ニ○由○ル○也○

第四百三條 商法ニ記スル場合ニ於テ倒産ノ罪ヲ犯

シタル者ハ左ノ刑ニ處セラレ可シ
詐偽ノ倒産ノ罪アル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
通常ノ倒産ノ罪アル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ
多カラス時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ

○ 第二百四十四回 明治十四年六月

先づ第二通常倒産ノ部ヨリ説起サン
通常ノ倒産ノ罪トハ商法第五百八十五六兩條謂フ所ノ
諸者是也對照スレハ自カラ明カチラシクハ
商法第五百八十五條ノ左ノ場合ニ於ケル分散人ハ必
ズ通常ノ倒産人タルヲ言渡ヲ受ク可シ

第四 第二其者ノ一身ノ費用又ハ家内ノ費用過度ナル言
渡ナル時

第二 冒險ノ所爲ニ因リ又ハ國債證券ノ相場或ハ商
品ノ相場ニ立ルニ付キ詭遇ノ所爲ニ因リ夥多ノ金高
ニ失フタル時

第三 分散ヲ防ガシテス定メ意圖以テ時價ヨリ下直
ニ賣拂ヲ爲シ商品ヲ買入レタル時又ハ同上ノ意ヲ以

テ本利リ夥多ノ金高ヲ借入レ又ハ手形ヲ發出シ又ハ
其他資本ヲ得シカ爲メ産業ヲ衰敗スルヲ至ラシメ
計策ヲ爲シタル時

第四 分散人其金高ヲ拂フコト止メタル後債主中ノ
一人ニ其負債ヲ償ヒ債主全員ノ害ヲ爲シタル時

同第五百八十六條ノ左ノ場合ニ於ケル分散人ハ其時
ニ模様ニ因リ通常ノ倒産人タルノ言渡ヲ受ク可シ

第一 其者他人ノ算計ヲ爲メ引當ノ物品ヲ受取ル
コト其家産ニ比シテハ過分ナル義務ヲ負フタル時

第二 分散人債主トノ約定書ニ記シタル義務ヲ行フ
コトナクテ再ヒ分散公告ノ言渡ヲ受ケタル時 第二百五
條

以下
是合

第三 分散人嫁資分括ノ法ニテ婚姻ヲ爲シ又ハ婦ト
 財產ヲ分ツテ婚姻ヲ爲シ第六十九條及ヒ第七十條ノ
 規則ヲ遵守セザル時
 第四 其勞散入金高ヲ拂フ日ヲ止メタルヨリ三日内ニ
 第四百三十八條及ヒ第四百三十九條ニ記シタル如ク
 書記局ニ勞散ノ届ヲ爲サズル時又ハ其届ヲ爲スト雖
 同勞散人ト連帶シタル社中全員ノ姓名ヲ其届書ニ記
 スル元時
 第五 勞散人相當ノ差支ヲ付シテ定期内ニ自ラテ管
 財人ノ面前ニ出席セザル時又ハ宥免狀ヲ得タル後相
 當ノ差支ヲ付シテ裁判所ニ出席セザル時
 第四百七
 第五
 條見合

第六 分散人其簿冊ヲ設クルトナク并ニ目錄ヲ詳細
 ニ記シタルコトナキ時又ハ其簿冊及ヒ目錄不十分或
 ハ不規則ナル時又ハ其簿冊及ヒ目錄ヲ以テ其貸金ト
 負債トノ異ニ模様ヲ知ル可カラザル時
 但此等ノ事ニ付キ分散人ニ詐偽ナキヲ必要トス
 右五百八十五條ハ純然タル倒産ノ場合コシテ本文亦明
 瞭ナリ五百八十六條ハ時ノ模様ニヨリテ倒産トナル可
 キ者ニ係ル此レ少シク解説セザルヲ得ス
 第一他人ノ算計ノ爲メ過分ナル義務ヲ負ヌトハ例セザ
 甲者乙者ニ借金アリテ辨償スルヲ能ハス丙者甲ノ證人
 トナルヲ之ヲ處理セシムルコトヲ乙ニ保證シタル後甲遂
 ニ約ノ如クスルヲ能ハサルヨリ事丙ノ一身ニ係レル場

合以如キ是也
 第二ハ分散人一旦示談ヲ遂ケタルモ其約定ノ如クモサ
 ルヲ以テ再ヒ分散ノ言渡ヲ受クル場合ヲ云フ
 第三第六十九、七十ノ兩條ニ記スルカ如ク分散人ノ不
 規則ナル時

〔參觀〕

商法第六十九條〔千八百三十八年五月二十八日左ノ
 如ク改ム〕財産ヲ分チタル夫又ハ婦或ハ嫁資分括ノ法
 ニ循フタル夫又ハ婦婚姻ヲ結ビシ後ニ商人トナル時
 ハ其商業ヲ始メタル日ヨリ一月内ニ其婚姻契約書ノ
 抜書ヲ差出ス可シ若シ此規則ニ背キタル時後ニ分散
 人トナルハ於テ通常ノ倒産人タルノ言渡ヲ受ク

可シ 第五百八十六
 條第三項見合

同第七十條ハ財産ヲ分チ或ハ嫁資分括ノ法ニ循フタ
 夫又ハ婦此商法布告ノ時既ニ商業ヲ爲スニ於テハ
 其布告ヨリ一年内ニ同上ノ抜書ヲ差出ス可シ若シ此
 規則ニ背ク時ハ前條ニ記シタル言渡ヲ受ク可シ

〔參觀〕

商法第四百三十八條ニ總テ家資分散ヲ爲シタル商人
 ハ金高ヲ拂フコトヲ止メタルヨリ三日内ニ其住所ノ商
 法裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ届出ツ可シ但金高ヲ拂フ
 コトヲ止メタル日ハ其三日ノ期限内ニ合算ス可シ
 合名ノ會社家資分散ヲ爲シタル時ハ其届書ニ社中各

人ノ姓名住所ヲ記ス可シ但其届書ハ會社ノ首屋所在
 ノ地ノ商法裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ
 同第四百三十九條 家資分散ノ届書ニ添テ積書ヲ差
 出ス可シ若シ之ヲ差出サ、ル時ハ之ヲ差出シ能ハサ
 ズ原由ヲ其届書ニ記ス可シ○其積書ニハ家資分散人
 ノ動産及ヒ不動産ノ目錄、其見積リ直段貸高、借高、利得
 及ヒ損失ノ目錄、費用ノ目錄ヲ記シ家資分散人其真正
 ナル証ヲ附記シテ且之ニ日附ヲ爲シ姓名ヲ手署スヘ
 第五省免狀トハ例セハ分散人事ノ困難ナルヲ察シ他國
 ニ遁カレ管財人ノ面前ニ出サレコアリ其時右ノ省免狀
 ナル者ヲ付シテ決メ云々ノコトハ爲サ、ルニ付キ出席ス

ヘシト命スル者ノ類之ヲ受ケテ尙ホ出席セサル時ハ本
 條ニ問フ但省免狀ハ商法裁判官之ヲ出ス
 第六商人ハ都テ簿記ヲ詳細ニシテ金錢出納等諸事甚ダ
 分明ナルヘキ者ナリト雖モ下等ノ商人ニ至テハ然ラサ
 ル者多シ是レ其眞ノ模様云々トアル所以ナリ
 但書ヲ置クハ事ノ詐僞ニ係ル者ハ詐僞ノ倒産ヲ以テス
 ヘキカ故ナリ
 詐僞ノ倒産トハ即チ現今日本ニ行ハル、所ノ身代限リ
 是ナリ商法第五百九十三四ノ兩條ヲ一讀セヨ
 商法第五百九十三條 左ノ者ハ詐僞ノ倒産人ノ受ク
 可キ刑ニ處セラル可シ
 第一 分散人ノ爲メ其分散人ノ動産又ハ不動産ノ全

部又ハ一部ヲ匿シ又ハ有ルヲ知テ無シト述ヘタル者
 但刑法第六十條ニ記シタル場合ハ格別ナリトス
 第二 詐偽ヲ以テ分散ノ事ニ参加シ自己ノ名義ヲ用
 ヒ又ハ他人ノ名義ヲ借リテ贗造ノ貸金ノ証書ヲ真正
 ナリト誓フタル者
 第三 他人ノ名義ヲ用ヒ又ハ詭リノ名義ヲ用ヒテ商
 業ヲ爲シ第五百九十一條ニ記シタル罪ヲ犯セシ者
 同第五百九十四條 分散人ノ配偶者又ハ分散人ノ血
 屬及ヒ姻屬ノ尊屬又ハ卑屬ノ親竊ニ分散人ト相通ス
 ルニ非スシテ分散人ノ財産ヲ匿シ又ハ盜ミタル時ハ
 竊盜ノ罪アリトス 刑法第三百
 八十條見合
 此兩條記スル所ハ分散人ヲ曲庇スル者ニシテ即チ其從

第四百三條 商法ニ記スル所ニ循ヒ詐偽ノ倒産犯罪

犯タリ
 佛律ニ在テハ首從罪ヲ異ニセサルカ故ニ五百九十三條
 ノ「ハ特ニ之ヲ云ハサルモ不可ナシト雖モ唯其明了ナ
 ラシトテ欲シテ然ルノミ
 五百九十四條ハ刑法三百八十條ヲ參觀スレハ自ラ分明
 ナリ
 刑法三百八十條ノ場合ハ其害内ニ止リテ他ニ及ハサル
 ヲ以テ之ヲ問ハス商法五百九十四條ノ場合ハ其害他ニ
 及フカ故ニ親屬間ト雖モ之ヲ罰ス但其相通シテ爲シタ
 ルハ仍ホ商法五百九十三條ニヨル
 右ノ外詳細ナル「ハ商法ニ就テ觀ルヘシ

人ノ附從タル裁斷ヲ受ケシ者ハ其首謀ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

此レ已ニ前ニ解説セリ

第四百四條 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ家資分散ヲ爲シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ若シ此等ノ世話人詐偽ノ倒産ノ罪ヲ犯シタル證アル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

此レ大ニ必要ヲ條ニシ事頗ル緊嚴ナリ其如何ヲ知ラント欲スレバ此等ノ者ノ身上ヲ詳知セサル可ラス
此世話人ナル者ハ賣買ノ中間ニ立チ他ノ依托ヲ受ケ其

周旋ヲ爲シテ若干ノ手数料ヲ受クルヲ以テ營業トスル者ナリ
凡ソ株券手形等ノ賣買ハ概ムテ此世話人ノ手ヲ經ル事トナシ自然他ノ信憑ヲ受クルト頗ル厚クシテ即チ一ノ株式トナレリ
右ノ如ク他ノ信憑ヲ受ケテ其事ニ周旋スル者ナルカ故ニ其分散ヲナス時ハ他ヲ害スルト深ク又其信用ニ背ク所輕カラサルナリ
凡ソ分散ト云フハ商法第四百三十七條是也是レ分散人ノ資格トス又其五百八十五條其他分散倒産等ノトハ都テ商人ニ限ル常人ニ於ケル者ニ非ラス之ヲ要スルニ商業分散人云々トシテ看ルヘシ

凡ツ商人上ヲ商法第一條商賣ノ業ヲ行ヒ之ヲ以テ平常
己レノ職分ト爲ス者是也此レ商人ノ資格トス

○第二百五回 明治十四年六月

第四百五條 一千八百六十三年五月十三日如左改ム偽
リノ姓名ヲ用ヒ或ハ偽リノ身分ヲ稱シ或ハ偽リノ起
作無實ノ威權偽リノ信據ヲ人ニ證シ示ス可キ爲メ詐
計ヲ用ヒ又ハ人ヲシテ無實ノ成功及ヒ無根ノ事故ヲ
希望セシメ或ハ畏怖セシム可キ爲メ偽計ヲ用ヒテ人
ノ所有スル金銀動産義務ノ證書契約書手形約定書算
還ノ證書ヲ己レニ渡サシメ或ハ渡サシメント試ミ爲
シ且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ奪ヒ或

ハ奪ハント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラズ五年
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フラ
ンク」ヨリ少カラズ三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金
ノ言渡ヲ受テ可シ
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラズ十
年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ
行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ但此規則ト其犯人
ニ贗造偽造ノ重罪アル時更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則
ト相觸ルトテ可カル可シ

○
此レ詐偽取財ノ罪ニ係ル即チ詐術ヲ以テ間接ニ欺キ取
ル者ニシテ盜犯ノ直接ニ掠奪スルト別アレハ要スルニ

均シク盜罪タルニ過キス然レハ其詐術百端日チ透ツテ
 益々巧ニ其跡湮滅シテ證據ノ徵スヘカラサルモノアリ
 或ハ跡詐偽ニ類シテ其實然ラサルモノアリ此レ大ニ判
 官ノ思慮ヲ勞スル所ナリ
 本條ノ主眼ハ取財ノ目的ヲ以テ詐術ヲ行ヒ人ノ財ヲシ
 テ全ク己レノ所有ニ歸セシメタルモノニ在リ故ニ身貴
 顯ノ要職ニ居リ若シハ其地有名ノ紳士ト詐稱シテ人ノ
 金錢ヲ借入シタルカ如キモ其期限ヲ愆マラスシテ返済
 シタルハ本條ノ問フ所ニアラス
 偽リノ姓名ヲ用ヒ偽リノ身分ヲ稱スルハ前ニ云ヘル如
 シ身ハ何某ニテ現時某職ニ在リト云フノ類偽リノ起作
 トハ某工事を起シ或ハ某會社ヲ設立スト云フノ類無

實ノ威權下ハ己レノ父現ニ顯要ニ在ルヲ以テ汝ニ勳章
 ヲ賜ハルコトヲ懇懇スヘシ或ハ某事件ノ許可ヲ得サシム
 ヘシト云フノ類偽リノ信據トハ委任狀ノ類ニシテ如此
 證據アリ或ハ如此命ヲ奉シタリト云フノ類無實ノ成功
 ヲ云々ノトチ爲スルハ云々ノ功ヲ成就スヘシト形跡
 ナキヨチ陳ヘテ人ニ冀望ヲ懸テシタルノ類無根ノ事故
 モ亦畏怖セシムトハ何某ハ云々ノ重罪アリ不日死刑ニ
 處ゼラルヘシ杯ト其家族ヲ畏怖セシメ誘ムクニ救解ノ
 策ヲ以テタルノ類此レ皆詐偽ノ手段ヲ列擧スルナリ
 右等ノ詐術ヲ以テ金銀動産等ヲ取ラントシ若シハ取リ
 タルモノハ皆本條ノ刑ニ處ス而シテ其罪輕罪ノ價造偽造
 ルモノハ本條ニ止マルモノハ被害者ニ於テモ既ニ其偽
 第二項ニ依ル

所^〇問^〇ラ^〇ヘ^〇キ^〇ト^〇否^〇ト^〇ノ^〇別^〇ヲ^〇生^〇ス^〇此^〇ノ^〇實^〇際^〇處^〇罰^〇ノ^〇繁^〇雜^〇ナ^〇ル^〇
 抑詐偽背信は如キハ刑法上最難ノ件トスル者ハ彼ノ單
 ニ衣類ヲ盜ミ金錢ヲ奪フカ如キノ比ニアラサレハナリ
 此等ノ處分ハ只判官ノ認定活斷ニ任スヘキノミ
 詐偽ノ術タル一々明指スヘカラス又一言ニ概括スルヲ
 得テ何トナレハ人智ノ開進ニ隨テ其偽計モ亦益奇變ヲ
 極ムレハナリ草按第四百三十四條ハ其他ノ偽計云々ト
 シテ之ヲ細示セス

第二節 背信ノ罪

第四百六條 幼者ノ窮乏怯心、情欲ニ乘シ其損害トナ
 ル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀、動産、商業ノ手形

又ハ其他ノ手形類ヲ貸借スル義務ノ證書又ハ算還證
 書ニ其姓名ヲ手署セシメシ者ハ其取引掛合ヲ爲ス方
 法ノ如何ナルヲ問ハス又口實ノ如何ナルヲ問ハス二
 月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ
 處セラレ且其罪犯ノ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ償還ス
 可キ總高ノ四分一ヨリ多カラス二十五「フラン」クヨリ
 少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ前條ノ
 次項ニ記シタル刑ヲ受ケシムルヲ得可シ

○
 本條ノ罪犯ヲ處スル亦至難トス普通ノ背信罪ハ第四百
 八條ニシテ本條ハ特別ナル者ニ係ル其幼者ノミニ對ス
 レテ事ナレハナリ

窮乏ニ乗スルハ幼者ノ貧困ニシテ金錢ヲ要スヘキノ機
 ニ乗スルナリ怯心ニ乗スルハ手段ヲ以テ幼者ヲ畏怖セ
 シメ其機ニ乗スルナリ情慾ニ乗スルハ幼者ノ嬉戯若シ
 ハ游蕩ノ爲メ金錢ヲ得ント欲スルノ機ニ乗スルナリ要
 スルニ一ハ教唆誘導ニ係リ二ハ威迫壓制ニ係ル其損害
 下爲ルヘキ方法トハ例セハ千圓ヲ貸シテ二千圓ノ証書
 手取又ハ百圓ノ物品ヲ賣リテ千圓ノ代價ヲ受クル等ノ
 類ナリ且
 日本條ノ精神ハ損害トナルヘキ云々ニ在ルヲ以テ縱令其
 機ニ乗シテ之ヲ欺キタルモ其幼者ニ損害ヲ與ヘサルモ
 本條ヲ以テ罰セス是レ毫モ幼者ニ利害ヲケレハナリ
 第四百七條 人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐偽

ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ算還ノ證ヲ記シ又ハ其
 他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身体又ハ産業ノ爲メ
 害トナル可キ證ヲ記シタル者ハ第四百五條ニ記シタ
 ル刑ニ處セラル可シ
 若シ其白紙ヲ預リタルニ非サル者其罪ヲ記シタル時
 ハ贋造ノ罪ノ訴ヲ受ケ贋造ノ刑ニ處セラル可シ
 ○
 此レ實際多ク有ルノコトニアラス例セハ証書記載方ヲ知
 ラサルモノ自己ノ姓名ノミヲ手署シ他ニ托シテ書記セ
 シムルニ其托ヲ受ケタル者本條ニ觸ル、ノ所爲ヲ爲シ
 タルカ如キ是ナリ
 然レモ其之ヲ托シタルモ當初其人ヲ信用スルノ不注

意ナルヲ以テ被害者ニ於テモ幾分カ其責ヲ免ルヘカラ
ス是レ第四百五條ト同刑ニスル所以ナリ然レモ其托テ
受ケサル者ニシテ本條ニ觸レタルハ價造ノ罪トシテ
第四百四十七條ニ問ヒ有期ノ徒刑ニ處スヘシ此レ被害者
ノ毫モ知ラザル所ナレハナリ

第四百八條 千八百六十三年五月十三日如左改ム借
受、附托、質入、借用ノ爲メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ノ
用ヲ達スル爲メ人ヨリ動産、金銀、商品、手形、算還ノ證書
又ハ其他借受或ハ算還ノ證書類ヲ受取り後ニ之ヲ還
シ又ハ示シ又ハ定マリタル用法ニ之ヲ用フ可キノ約
ヲ爲シ其約ニ背キ此等ノ諸件ヲ竊取シ又ハ消費シテ
其所有者ノ損害ヲ爲セシ者ハ第四百六條ニ記シタル

刑ニ處セラル可シ
若シ行政又ハ裁判ニ管スル官吏前項ニ記セシ背信ノ
罪ヲ犯シタル時又ハ僕婢、雇人、弟子、書記官、家僮、工丁、年
季弟子ノ其主又ハ師ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ爲シタ
ル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ
但此規則ト第二百五十四條第二百五十五條第二百五
十六條ニ記セシ公ケノ預リ所ニ藏スル金銀、動産、證書
類ヲ竊取掠奪スル罪ヲ罰スル規則ト相觸ル、トナカ
ル可シ

此レ普通ノ背信罪ニシテ實際屢之レアリ
本條四個ノ別ア、借受、附托、質入、借用云々是ナリ千七百

九十年前現在テ本條讀スルニ據テ民法ニ問ハス
 全ク民事債還ヲ要方ニ止マシムル九千七百九十一年ニ附
 托物ヲ消費シタルモノハ處罰スヘシトシ千八百八年ニ
 借受ナ加ヘ千八百三十二年ニ質入ナ加ヘ次テ千八百六
 十年ニ借受ナ加ヘ借用云々ニ加ヒ數度以テ増補スルニ至レリ
 此處個ノ爲ニ六動産金銀若クハ證書等ヲ受取リタル者
 其後之ヲ還シ之者ナラバ定ニ其用法ニ用ユ可キハ
 約束ニ背キテ之ヲ竊取シタル等ニ屬セ本條ヲ以テ罰
 金但本條ニ多ク商家ノ管店及製造所支配人ノ間ニ係
 置ル事ニ及ビ又ハ其間ニ入テ其用法ニ用ユ可キハ
 且此背信罪之ヲ証スルハ其事實何レナレハ或ハ附
 托者受クルニ非ラス云々ノ事情ヲ以テ之ヲ借レリ或ハ

借リタルニ非ラス與ヘラレシナリト云フカ如キ其口實
 一ニシテ足ラス例セハ一物ヲ骨董商ニ賣ラントスル者
 アリ賣買ノ約未タ定ラサルカ故ニ依頼スルニ翌日迄之
 ナ寄預セントナ以テシ該商其需メニ應ス是レ即チ附托
 ナリ此レ其客ノ主人ヲ信シタルニ由ル然ルチ該商信ニ
 背キテ之ヲ他ニ賣却セシ此等ハ實際紛糾ヲ生スルノ一
 ナリ人々ノ誤會ニ由リテ生ズル事ニ於テハ其公訴
 右ノ如キ約定分明ナラザル者ヲ証憑スルハ實ニ難シ檢
 官ノ之ヲ公訴スルヤ其証確的ナラザルニ於テハ其公訴
 ノ消滅ニ歸スルハ論ヲ俟タズ
 然ルニ本條ノ刑何カ故ニ輕キヤ此レ亦委託者不注意ヲ
 免ルニテ得サル所アレハナリ然レモ其心術ハ毫モ盜犯

ト異ナラズ唯法律ハ心術ヲ罰セザルナリ
 第二項ノ重キモノハ特ニ信スヘキ者ノ其信ニ背キタル
 ナリ以テナリ即チ賣買若クハ附托等ノトニ關預スル行政
 官吏若クハ裁判所附ノ官吏自ラ前項ノ罪ヲ犯シ及ヒ僕
 婢等ノ如キハ所謂信任厚ケレハ其罪亦重シ
 公証人ノ參會シテ賣買スル事件ニ付キ公証人其代價ヲ
 占領シタルカ如キ此レ亦本項裁判官吏ノ一ナリ
 第三項但書ハ明丁ナリ是レ前ニ講述セリ

此レ自ガテ己レノ物ヲ取ル竊取ト云フヘカラス本條ノ
 場合ハ一ノ訴訟ヲ起サントスルト原被ノ代書師其証書
 類ヲ取替ハスコトアリ既ニ取替ハセテ爲シタル後一方ノ
 者已レノ不利ナルコトヲ覺リ竊ガニ之ヲ取還スノ類ヲ云

グロース氏佛蘭西刑法講義

第二百六回明治十四年七月

第四百九條 裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲ス時証書又ハ覺書ノ
 類ヲ出セシ後如何ナル方法ヲ論セス其証書又ハ覺書ヲ竊
 取セシ者ハ二十五フランクヨリ少カラス三百フランクヨ
 リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
 但シ其刑ハ訴訟ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ言渡ス可シ

〇

此レ自ガテ己レノ物ヲ取ル竊取ト云フヘカラス本條ノ
 場合ハ一ノ訴訟ヲ起サントスルト原被ノ代書師其証書
 類ヲ取替ハスコトアリ既ニ取替ハセテ爲シタル後一方ノ
 者已レノ不利ナルコトヲ覺リ竊ガニ之ヲ取還スノ類ヲ云

フ故ニ竊取ノ二字妥當ナラス隱蔽若クハ藏匿ニ改ムレ
ハ可ナリ

其所爲タル甚々輕シ事亦單一ナルヲ以テ其刑ヲ罰金ニ
止メ其裁判所ニ於テ直ニ之ヲ言渡スナリ

第三節 賭博場、富場、典舖ノ規則ニ背ク罪

第四百十條 賭博場ヲ設ケ人ヲシテ自由ニ入ラシメシ者
又ハ管係アル者ノ申込ニテ人ヲ入ラシメシ者又ハ其賭博
場ニ於テ賭博ノ世話ヲ爲ス者又ハ法律ニ於テ允許セサル
富場ヲ設ケシ者又ハ賭博場、富場ノ支配人、世話人ハ二月ヨ
リ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ
且百フランクヨリ少カラス六千フランクヨリ多カラサル
罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

且其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨ
リ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁
ヲ受ケシムルコトヲ得可シ
何レノ場合ニ於テモ賭博又ハ富ニ用ヒタル金銀、証券、家具
及ヒ其場所ニ具備排列シタル家具動産ハ官ニ沒取ス可シ

本條ト第四百七十五條第五項ト如何ナル別アルカヲ對
照セヨ此レ他ナシ事ニ輕重ノ別アリ場所ニ内外ノ差アリ

ルナリ
何ソヤ第四百七十五條第五項ハ道路ニ於テスルヲ以テ
警察官等容易ニ之ヲ撞見シ得ヘク其害モ亦隨テ輕シ本
條ハ家屋内ニ係ルヲ以テ之ヲ撞見スル頗ル難ク其害實

○小○ナ○ラ○サ○ル○モ○ノ○ア○リ○此○レ○其○別○ア○ル○所○以○ナ○リ○
 但慈惠ニ出テ貧民ヲ救助スルカ爲メニ富場ヲ設クル等
 公共ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスモノハ政府ノ允許
 スル所ニアリ是レ本文允許セサル云々トアル所以ナリ」
 末項ハ其品種ノ何物タルヲ問ハス都テ其場ニ在ルモノ
 燈器椅子ノ類ニ至ルマテ悉ク沒収スルヲ云フ
 佛國ハ賭博者ヲ罰セス只其世話人支配人若クハ賭場ヲ
 設ケテ入ラシメシ者等ノミテ罰ス此レ其場所ヲ制スレ
 ハ賭博ヲ爲スニ由ナク遂ニ自滅ニ歸スヘシトノ意ナル
 ヘシト雖モ此レ穩當ナリトセス草按ハ並ニ之ヲ罰ス其

第二百九十三四條ヲ看ニ

第四百十一條 相當ノ允許ヲ得スシテ典舖ヲ開キタル者

又ハ允許ヲ得ルト雖モ規則ニ循ヒ剩白剩行ナク其貸渡シ
 タル金高品物其借主ノ姓名住所職業質ト爲シタル品物ノ
 性質種類價高ヲ記シタル簿冊ヲ設ケサル者ハ十五日ヨリ
 少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且
 百「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰
 金ノ言渡ヲ受ク可シ

千八百五十八年私設典舖ヲ廢シタルヲ以テ本條ハ無用
 ニ屬スルカ如シト雖モ之ニ換フルニ公立典舖ヲ以テシ
 タルカ故ニ尙ホ本條ヲ適用ス
 凡ソ典舖ヲ開設セント欲スルモノハ先ツ官ノ許可ヲ得
 サルヘカラス已ニ許可ヲ得レハ又其規則ヲ履行セサル

ヘカラス違フ者ハ之ヲ罰ス
私設典舖ヲ廢シタル所以ハ其弊害實ニ甚シキモノアル
ヲ以テナリ例セハ百圓ノ實價ヲ有スル抵當品モ僅ニ貸
スニ五拾圓ヲ以テシ其期限ヲ過クルキハ毫モ猶豫セズ
直チニ之ヲ流質トスルノ類其所置ノ殘酷ナル言フニ忍
ヒサルニ至レリ

公立典舖ハ然ラス其抵當物ニ相當セルノ金ヲ貸ス期限
ニ至ルモ利金ヲ拂ヘハ尙ホ之ヲ繼續スルヲ得ヘク縱令
期限ヲ過クルモ多少ノ猶豫ヲ與ヘ果シテ流質トナリタル
キハ之ヲ公賣シテ其元利金ヲ引去リ猶剩餘アレハ之ヲ
典者ニ還付スルナリ

第四節 糶賣ノ自由ヲ妨クル罪

第四百十二條 不動産動産ヲ所有スル權、不動産動産ノ入
額ヲ得ル權、不動産動産ノ貸賃ヲ得テ貸與フル權、起作、供給、
商業ノ得利、土地ノ開墾及ヒ其他利分ヲ得ル權ヲ糶賣ニ爲
ス時其糶賣ノ前又ハ其糶賣ノ間ニ暴行脅迫ヲ爲シテ其糶
賣又ハ價ヲ附クルノ自由ヲ妨ケタル者ハ十五日ヨリ少カ
ラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フ
ラシク「ヨリ少カラス五千」フラシク「ヨリ多カラサル罰金」ノ
言渡ヲ受ク可シ
贈遺又ハ契約ニ因リ價ヲ附クル者ノ其糶賣ノ場所ニ至ル
ヲ止メシメシ者ハ同上ノ刑ニ處セラル可シ

本條講説ヲ待タス

價ヲ附シルノ自由云々トハ各需用者カ思想ヲ以テ低昂ノ價格ヲ附シルヲ妨クルヲ云フ例セハ已レ低價ニテ買得ント欲スルカ故ニ他ノ高價ヲ附クルモノヲ暴行脅迫ヲ以テ妨クルノ類草案第二百九十九條參看

第二頂ハ其仲間中昂價ヲ附クルヲ妨クルノ所爲ニ係ル即チ贈遺又ハ契約ヲ以テ其糶賣場ニ至ラシメサルモノヲ罰スルナリ

本條及ヒ前後數條ノ如キハ皆射利上ニ在ルヲ以テ特ニ其罰金ヲ重クス

第五節 製造、商業、藝術ニ管スル規則ニ背ク罪

第四百十三條 外國ニ輸出スル佛蘭西ノ製造品ノ性質種類、大小ヲ定ムル爲メ設ケタル行政規則ニ背キシ者ハ二百

「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且其品物ヲ沒収セラル可シ但此二個ノ刑ハ其時ノ景況ニ因リ之ヲ合セテ言渡シ又ハ其一個ノミヲ言渡ス可シ

此レ同業者ヲシテ損害ナカラシムルカ爲メニ設ケタルモノナリ製造場ノ如キハ行政規則ヲ以テ各其取締ヲナス例セハ「シヤンパン」容器ノ分量ヲ定ムルカ如キ是レナリ

此規則ニ本條ノ裁制ヲ要スル所以ハ「シヤンパン」ノ如キ爆ノ底ヲ上ケ四周ノ肉ヲ厚シタルモノハ其外見毫モ異ナルヲシト雖モ中ニ充テル酒量ハ大ニ減少セリ又外

見少ナキカ如キモ其壕ノ薄クシテ且底深キハ實量遙ニ多キモノアリ若シ之ヲ同一視スルハ正商ハ爲メニ夥多ノ損害ヲ蒙ルリ其影響施ヒテ全國ノ製造者ニ及フヘシ

之ヲ要スルニ本條ハ固有物産ノ聲譽ヲ永久ニ保續シ併セテ殖産ノ利ヲ興コサシムルニ在リ

第四百十四條 (千八百六十四年五月二十五日如左改ム) 暴行、脅迫、偽計ヲ以テ強テ工丁ノ雇賃ヲ昂低セント爲スタメ又ハ製造、工作ヲ自由ニ行フノ妨ヲ爲スタメ一時ニ製造、工作ヲ停止セシメ或ハ停止セシメント試ミ爲シ又ハ其停止ヨクシカラシメ或ハ久シカラシメント試ミ爲シタル者ハ六日ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處

セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其二個ノ刑中ノ一個ノミノ言渡ヲ受ク可シ

○
千八百六十四年前ニ在テハ工丁協議シテ工銀ヲ騰貴セシメ又ハ製造場主等協議シテ工銀ヲ低下セシメ或ハ試ミ爲シタル者モ罰シタリ
然ルニ其頗ル過嚴ナルヲ以テ現今ハ暴行脅迫偽計ヲ以テスルニ非サレハ本條ニ問ハス本文協議ノ字ナキヲ以テ知ルヘシ

但本條改正ノ際大ニ其寬ナルヲ論セシ者アリ
第四百十五條 (千八百六十四年五月二十五日如左改ム) 預

ノ協議シタル謀計ニ因リ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ
裁判所ノ言渡ヲ以テ其犯人ニ二年ヨリ少カラス五年ヨリ
多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○

此レ別條ヲ設クルヲ要セス只前條ノ別項タルニ過キス
即チ前條ノ暴行強迫偽計ヲナスニ預メ協議謀圖シタル

并ハ前條處罰ノ外仍ホ監察ヲ受ケシムルヲアルナリ

第四百十六條 (千八百六十四年五月二十五日如左改ム)工
丁、雇主、起作人、預メ協議シタル謀計ニ因リ罰金又ハ禁制ヲ
言渡シ製造工作ヲ自由ニ行フノ妨ヲ爲シタル時ハ六日ヨ
リ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ
且十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサ

ル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ此二個ノ刑中ノ一個ノミニ處セ
ラル可シ

千八百六十四年五月二十五日ノ法第二條第四百十四條
第四百十五條第四百十六條ハ土地ノ所有者及ヒ土地ヲ
借受ル者又ハ刈取ヲ爲ス者及ヒ田野ニ於テ使用スル雇
夫ニモ亦通シ用フヘシ○千七百九十一年九月廿八日及
ヒ十月六日ノ法律ノ第二編第十九條及ヒ第二十條ハ廢
ス

○

此レ協議謀圖シテ仲間間ニ一種ノ法律ヲ設ケ某業ヲ取
レハ罰金ヲ命ス可シ某時間ニ作業セハ禁制ヲ爲ス可シ
トスルノ類ヲ云フ

本條ノ眼目ハ其自由ニ行フノ妨ケヲ爲シタル時トアル
ヲ以テ謀試ハ問フ所ニアラス

○第二百七回明治十四年七月

第四百十七條 佛蘭西國ノ工作ヲ妨害セント爲スノ意ヲ
以テ其工作場ノ指揮者雇人工丁ヲ故ラニ外國ニ出行セシ
メシ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮
ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス三百フラン
クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此レ前四百十三條以下ニ連續シ佛國ノ工業ヲ保護スル
ノ意ニ出ツル者ナリ

就中四百十三條トハ直接ノ關係ヲ有ス何トナレハ同條

ト本條トハ共ニ外國ニ關スルノ事ナレハナリ
本條ハ實施上頗ル難事トス本條ノ眼目ハ妨害セ
スノ意ト云ニアリ是レ之レガ証憑ヲ集メ其罪ヲ認定ス
ルハ實ニ容易ノ事ニ非ス

例セハ「マツチ」シヤボン「其他都テ工作ノ事業ハ外國ニ在
テ之ヲ爲スハ固ヨリ妨ケスト雖モ爲メニ内國ノ或ル工
作場ノ諸人ヲ誘出シテ其事業ヲ妨害スル等ノ事アルカ
如キ是也

之ヲ要スルニ前各條ノ主旨ノ如ク其一方ヲ障礙セシ實
跡アル者ヲ罰スルニ在リ

第四百十八條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)製造

所ノ指揮者雇人及ヒ工丁外國人又ハ外國ニ居住スル佛蘭西人ニ其製造ノ奧秘ヲ漏洩シ又ハ漏洩セント試ミ爲シタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百フランクヨリ少カラス二萬フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

若シ其奧秘ヲ佛蘭西國內ニ居住スル佛蘭西人ニ漏洩セシ時ハ其犯人三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ官ニ屬スル兵器及ヒ彈藥ヲ製造スル奧秘ヲ漏洩シタル時ハ其犯人必ス此一條ノ第一項及ヒ第三項ニ記シタル刑ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

○

前條ハ外國ニ出行セシメシ者トアルヲ以テ泛ク一般ノ人ニ係ル本條ハ指揮者雇人工丁等ノ犯ニ限ル

故ニ傍觀者得ル所アリテ他ニ語リタルカ如キハ本條處罰ノ限リニ在ラス

凡ソ自己ノ發起ヲ以テ作業スルモノハ專賣免許ノ法アリ本條ノ場合ハ之レト異ナリ唯其藥品調合ノ程度或ハ模倣等所謂製造ノ奧秘ヲ漏洩スルヲ以テ罪トス

凡ソ製造場ノ如キハ人ノ縦覽スルヲ好マズ此レ常人ノ始ヨリ之ヲ知ラサル者ハ幾萬人ノ來ルアルモ妨ケスト雖モ或ハ他ノ製造所ヨリ人ヲ派遣シテ窺カニ其奧秘ヲ探知セシムル等ノ事アレハナリ然レヒ其唯來觀シテ之ヲ得ルカ如キハ之ヲ如何ニスルヲ得ス

若シ其工丁等ヲ窺カニ其内ニ入ラシメ其奧秘ヲ探知シタルカ如キハ之ヲ罰ス

第二頂ハ明了ナリ

第三頂ハ内國人ニ漏洩シタル者ヲ云フ
此レ其大ニ輕キ所以ノ者ハ元來本條ノ主旨ハ自國ノ製作事業ヲ保護スルニアルヲ以テ同シク漏洩ニ係ルモ内國人ニ在テハ其害少ナクハナリ

第四項ハ官ニ屬ス故ニ重シ是レ獨リ本項ノミナラス

第四百十九條 故意ヲ以テ公ケニ詐偽或ハ讒誣ノ風評ヲ流布シ又ハ賣主ノ望ム所ノ價ヨリ更ニ高價ヲ附ケ又ハ同一ノ商品ヲ所有スル重立タル者ヲ協議セシメテ其商品ヲ賣ルヲ停止セシメ或ハ特ニ定メタル價ニ非レハ賣ラサルヲ定メシメ又ハ其他如何ナル方法ヲ論セス偽計ヲ用ヒ商品、紙幣、國債証票ノ價ヲ貿易ノ自由ニ因リ相競フテ自然ニ定マル可キ價ヨリ更ニ低昂セシメタル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ所セラレ且五百フランクヨリ少カラス一萬フランクヨリ多カルサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシ

此レ何レノ國ヲ問ハス商人社會ニ在テハ多ク之レアリ
凡ソ同商人ノ協議シテ浸リニ價ヲ低昂スルカ如キハ頗
ル世上ニ害アルヲ以テ本條特ニ之ヲ裁制ス
本文故意云々甘一字ハ無用ニ屬ス何トナレハ下ニ如何
ナル方法ヲ論セスト云へハ含蓄セサル者ナクハナリ
本文ヲ讀下スレハ自カラ明カナリ
詐偽譏誣トハ例セバ何店ノ物品ハ其性質云々ノ不良ア
リ又ハ内外國云々ノ亂アラントスト云カ如キ故サテニ
種々ノ風説ヲ爲サシメテ食料ノ價ヲ騰貴セシムルノ類
是也

其唯手代等ヲ諸方ニ派シテ諸色ヲ占買セシムル等ハ本
條處分ノ限リニ在ラス此レ時ノ模様ニヨリテ多少占買
シ若クハ賣ルヲテ停ムル等都テ常法ヲ以テ買入レ常法
ヲ以テ賣ルカ如キハ其常ニシテ商法上ノ機零ニ屬スレ
ハナリ
之ヲ要スルニ本條ノ精神ハ偽計ノ二字ニ在リ偽計ニ係
ルハ一切之ヲ罰ス
占買ハ壹人ニテ之ヲ爲スハ甚タシキ害ナシ何トナレハ
何人ト雖モ獨力能ク全國ノ品類ヲ買盡スヲ得ヘキ者
ニアラス加テ獨占シテ獨賣スルハ却テ十分ノ價ヲ得難
クハナリ

第四百二十條 若シ穀物及ヒ粗惡ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸

般ノ粉ト爲ス可キ物又ハ麴包葡萄酒及ヒ其他ノ飲料ニ付
キ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ者ハ二月ヨリ少カラス二年
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且千「フランク」ヨ
リ少カラス二萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受
ク可シ

又其犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政
府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○ 前條ハ一般ノ品類ニ就テ云フ本條以下ハ特別ナルモノ
ニ係ル

此レ其物タル他品ト異ナリ佛國ニ在テハ日常生活
ノ第一食品ナルヲ以テ其罰都テ前各條ニ二倍セリ

粗悪ノ穀物ハ改メテ其他ノ雜穀トスル可ナリ穀物トハ
上穀即チ小麦ニシテ雜穀トハ粟黍ノ類ヲ云フ

第四百二十一條 國債証票ノ相場ノ低昂ニ付キ賭博ヲ爲
シタル者ハ第四百十九條ニ記シタル刑ニ處セラレ可シ

○ 此レ及ヒ次條ハ公債証書ニ關シ賭博ノ所爲アル者ニ係
ル然ルニ實際未タ其例アルヲ聞カス

賭博ノ「」ニ付テハ民法千九百六十五條ニ一ノ裁制力ア
リ故ニ本條ノ場合ニ至レルモノハ之レナシ要スルニ本
條ハ公債証書ノ空相場ヲ裁制スルニアリ

第四百二十二條 國債証票ノ賣拂又ハ引渡ヲ爲ス可キ契
約ヲ結ヒシ時ニ當リ自カラ其証票ヲ所有スルノ証ナク又

ハ引渡ヲ爲ス可キ時ニ當リ其証票ヲ有スルノ証ナキ時ハ此等ノ契約ヲ賭博ナリト看做ス可シ

此レ全ク空相場ノ所爲ヲ云フ然レモ前ニモ述ヘシカ如ク本件ヲ以テ訴訟ヲ起スハ民法ノ許サ、ル所ナレハ本條ハ殆ント無用ニ屬ス

畢○竟○相○場○所○ハ○賭○博○ノ○固○ヨリ○始○メ○ヨリ○正○路○視○ス○ヘ○キ○者○
ニ○非○ラ○ス○唯○雙○方○紛○糾○ヲ○生○ス○ル○ニ○至○ラ○サ○レ○ハ○可○ナ○リ○而○シ○
時○或○ハ○違○論○ア○ル○モ○民○法○ノ○裁○制○ア○ル○カ○故○ニ○本○條○ヲ○以○テ○處○
ス○ル○ニ○至○ラ○ス○

且通常仲買人アリテ直接賣買スルニ非ラス故ニ若シ紛糾ヲ生スルコトアルモ仲買人其中間ニ在テ之カ仲裁ヲ爲

シ犯罪ノ場ニ至ラシメヌ是レ其最初賣買ノ高ニヨリ証據金ヲ取リテ其契約ヲ保固シ爾後其相場騰貴シテ彙ノ入金ニテ不足ヲ生スヘキト認ムル時ハ更ニ証據金ヲ収入セシム故ニ結局精算ノ場ニ至ルモ双方ノ歩合ヲ勘定スルニ支障ナキナリ

右ノ如クナルヲ以テ相場會所ハ素ヨリ弊ナキニ非ラスト雖モ然レモ其効用モ亦大ナリ一概ニ賭博遊蕩ノ場ト斷言スルヲ得ス何トナレハ國中一切ノ証書類ヲ賣買シ金圓ノ融通ヲ爲スノ所ナレハナリ若シ内外國債ヲ起スカ如キコトアルニ其証書ヲ其儘ニナシ置クハ爲メニ財源ヲ壅塞セシム相場所ノ効モ亦大ナラスヤ

○第二百八回明治十四年七月

第四百二十三條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 金銀ノ性質真物ナリト言ヒ販賣セシ贋造石類ノ性質諸般ノ商品ノ性質ニ付キ買主ヲ欺キシ者又ハ贋造シタル度量ノ具ヲ用ヒテ販賣ヲ爲ス品物ノ分量ヲ偽リシ者ハ三月ヨリ少カラズ一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償還ノ高ノ四分一ヨリ多カラズ五十「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
此輕罪ニ管シタル品物又ハ其代金尙ホ其賣主ニ属スル時ハ之ヲ沒収シ且其贋造シタル度量ノ具モ亦沒収シテ之ヲ破毀ス可シ
又裁判所ヨリ指示シタル場所ニ其刑ノ言渡書ヲ貼附シ且

其言渡書ノ摘撮書又ハ其全文ヲ裁判所ヨリ指示シタル新聞紙ニ印ス可キヲ言渡シ其費用ヲ犯人ヨリ償ハシム可シ

○
此レ前條ト事全ク異ニシ最モ緊用トス且實際屢適施ヲ要スル者ナリ
凡ソ金銀ハ純粹ナルモノヲ以テ使用スルコトハ蓋シ稀ナリ必ス多少他ノ金屬ヲ混和ス通貨ノ如キハ概テ金九銅一トス其他品類ニ因リテ別アリ
故ニ真物ナリトシテ欺クトハ例セハ時計ノ鎖ノ半金半銅ナルモノヲ以テ金九銅一ナリト云テ賣リタルノ類ニシテ全ク其物質ヲ欺ク者ヲ云フ故ニ金銀ノ性質トアレ

純粹ノ金銀ニ限ルニ非ス
 贗造石類トハ水晶ヲ以テ金剛石ニ擬作シ諸般ノ商品ノ
 性質ニ付買主ヲ欺キトハ米ニ麥ヲ混和シテ賣リタルノ
 類是也
 抑世ノ詐偽ヲ爲ス者ハ固ヨリ如此ノ拙劣ナラス必ス米
 ナラハ上米ニ混スルニ下米ヲ以テスルカ如キ常人ノ容
 易ニ知ルヲ得サルカ故ニ其犯狀ヲ知ルヲ亦頗ル難シ
 トス
 然ルニ上米ニ下米ヲ混スルカ如キハ性質ヲ欺ク者ニ非
 サルカ故ニ本條ヲ以テ處罰スルヲ得ス是レ豈不備ナ
 ラスヤ
 千八百五十一年ノ法律ニ變造物處分ノ事ヲ載シ爾來之

又羅紗ナランニハ上等ト云テ下等即チ打返シ等ヲ以テ
 シタルカ如キモ其羅紗タルハ一ナルカ故ニ刑法ニ問フ
 事ヲ得ス民法ニ於テ損害要償ヲ乞フヘキノミ但民法上
 ニテモ其証ヲ取ルノ難キハ亦同シ贗造度量ヲ証明スル
 ハ甚タ易シ即チ正當ノ度量ヲ以テ之ヲ權カレハ其差直
 ニ分明ナリ
 第二項ハ物品及ヒ代金ノ現存スル時ハ之ヲ沒收スルヲ
 云フ而シテ物品ノ現否ヲ知ルハ客易ナルモ代金ノ現否ヲ
 判スルハ實際爲シ得可カラサルノ事ナリ此レ宜キヲ得

然ルニ依テ處罰スト雖モ此レ獨リ食物ニ限リテ他ニ及ハ
 ス故ニ衣類ニ精絹鹿絹ヲ混織シタルカ如キハ之ヲ如何
 ニ處スルヲ得ス

サ○ル○者○ト○謂○フ○ヘ○シ○
 問、買主ニ返ヘサスシテ直ニ官没スルハ不當ナルニ似
 タリ如何
 答、買主ハ別ニ要償スヘキノ道アリ故ニ強テ不當トセ
 ス第三項實際ノ効能ハ頗ル本刑ヨリ大ナリ其事由ヲ記
 シテ本犯ノ居所及ヒ近傍ニ貼付シ遠キハ新聞上ニテ流
 布セラル、ナ以テナリ

第四百二十四條 若シ賣主ト買主ト互ニ取引ヲ爲スニ付
 キ法律上ニ定メタルモノニ非サル度量ノ具ヲ用ヒシ時ハ
 賣主其犯禁ノ度量ノ具ヲ用ヒ買主ヲ欺クト雖モ買主其賣
 主ニ對シ訴訟ヲ爲ス可カラズ但此規則ト犯禁ノ度量ノ具
 ヲ用ヒタル罪及ヒ詐僞ノ罪ニ付キ其犯人ヲ刑ニ處ス可キ

旨ヲ檢察官ヨリ求ムル事ト相觸ル、トナカル可シ
 詐僞ノ刑ハ前條ニ記シタル所ニ循フ可シ
 犯禁ノ度量ノ具ヲ用ヒシ罪ハ第四卷ニ記スル註誤ノ罪ニ
 處ス可キ刑ヲ用ヒ罰ス可シ

○
 此レ諸君或ハ疑義ヲ生センカ其之ヲ設ケタル所ノ理由
 ヲ説明スレハ則チ氷解セシ
 佛國ニ在テハ元ト種々ノ度量ヲ用ヒシカ後チ改メテ之
 夫一定セリ
 然ルニ頑愚ノ人民ハ欺罔セラル、チ知ラズシテ尙ホ舊
 器ヲ用フル者多シ
 是ヲ以テ法律上一定ノ度量ヲ用ヒスシテ損害ヲ受ケタ

ル者ハ裁判ノ限ニ在ラストシテ大ニ裁制ノ意ヲ示セリ
此レ本條ヲ設ケタル所以ナリ
但シ以下ハ犯禁及ヒ詐僞罪ニ觸ルハ別ニ其刑ニ處ス
ルヲ示ス

第二項第三項ハ説明ヲ須タス

第四百二十五條 著述者ノ藏版專賣ニ管シタル規則ニ背
キ書類、歌謠、畫圖又ハ其他活刷或ハ彫刻シタル物ノ全部又
ハ一部ヲ發行スルハ僞版ノ罪ナリトス但諸般ノ僞版ハ皆
輕罪ナリ

此レ甚ク難事トス

例セハ刑法講義ノ如キ法律家ハ何人ト雖モ之ヲ爲スナ

得ン故ニ假令同事同伴アリ逆僞版トス可キニ非ス之ヲ
要スルニ其之ヲ剽竊シタルノ明了ナルニ至テ始メテ之
ヲ問フナリ
凡ソ人ノ考按ハ各自趣旨ヲ異ニスルモ刑法ノ如キ一
據アルモノニ就テ説テ下スカ如キハ多少ノ同ナキ能ハ
ス而カレトモ新ニ起手スル者ハ又始終同一ナルノ理ナ
故ニ其全部ハ勿論一部ト雖モ全然剽竊スルニ非サレハ
其意味ノ同一ナルカ如キハ素ヨリ本條ヲ以テ罰スヘキ
ノ限ニ在ラサルナリ

第四百二十六條 僞版ノ書類ヲ販賣シ又ハ外國ニ於テ僞
版シタル佛蘭西ノ書類ヲ佛蘭西國內ニ携ヘ來リタル時ハ
亦同上ノ輕罪ナリトス

本條ハ一讀過スレハ足レリ
凡ソ外國ニ關スル偽版ノ事ハ各國中特別ノ訂約アリテ
互ニ相處罰ス

即チ其之ヲ携ヘ來リタル者及ヒ販賣シタル者ハ自國ニ
於テ罰スルヲ得ヘキモ其他國ニ在テ偽作スル者ハ之
ヲ如何トモスルヲ得ス此レ特別訂約ヲ爲スニ至リシ
所ナリ

第四百二十七條 偽版者及ヒ外國ニ於テ偽版シタル書類
ヲ佛蘭西國內ニ携ヘ來リシ者ハ百フランクヨリ少カラス
二千フランクヨリ多カヲサル罰金ノ言渡ヲ受ケ其偽版ノ
書類ヲ販賣セシ者ハ二十五フランクヨリ少カラス五百フ

ランクヨリ多カヲサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
偽版者又ハ偽版書ヲ外國ヨリ携ヘ來リシ者又ハ之ヲ販賣
セシ者ハ皆其偽版ノ印本ヲ沒収セラル可シ
偽版書ヲ印シタル版木鑄模活字ハ沒収セラル可シ

此レ前兩條ノ結局ニシテ其罰科ヲ示スナリ
偽版者ト輸入者トハ害大ニシテ罪重キカ故ニ其罰亦重
シ販賣者ハ輕シトス

第二項三項ハ説明ヲ須クス
第四百二十八條 作者ノ藏版專賣ノ規則ニ背キ劇場ニ於
テ曲伎ヲ演セシメシ劇場ノ支配人、目論見人、技藝者ハ五十
フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カヲサル罰金

ノ言渡ヲ受ケ且其受取金高ヲ没取セラル可シ

本條ハ多ク演戲作者ノ事ニ係リ其專賣權アル作者ノ藏

板ヲ擅ニ曲技ニ演シタル事ヲ云フ

其受取金高トハ所得金ナリ故ニ常人ノ親族宴會等ノ席

上ニ於テ演シタルカ如キハ此限ニ在ラサルヲ知ル

ベシ

第四百二十九條 前四條ニ記シタル場合ニ於テ其没取シ

タル物品及ヒ受取金高ハ著述者及ヒ作者ノ被リタル損失

ヲ償フ可キ爲メ之ヲ其著述者及ヒ作者ニ渡ス可シ但其償

ノ餘額ハ通常ノ方法ニ因テ之ヲ定メ又没入シタル物品ヲ

賣拂ハス又其受取高ヲ徵取セサル時ハ其償ノ總額ヲ通常

ノ方法ニ因テ定ム可シ

此レ前四條ノ細則ニシテ或ハ板本或ハ所得金杯ヲ取リテ

著述者若クハ作者ニ給スルヲ云フ

然ルニ其或ハ償額ニ充ツルニ足ラサルトアル時ハ民事

償還ノ例ニヨリ又其全部償額ニ充ツヘキ者ナキ時モ亦

同シク民事償還ノ例ニヨル本條併セテ之ヲ前スナリ

グロース氏佛蘭西刑法講義
○第二百九回 明治十四年七月
第六節 海陸軍ニ諸般ノ品物ヲ供給スル者ノ罪
第四百三十條 海陸軍ノ爲メ諸般ノ品物ヲ供給シ又ハ操
作ヲ爲スヘキノ委任ヲ受ケタル會社中ノ者又ハ各人抗拒
ス可カラサル力ノ強迫ニ因ラスシテ其任ヲ受ケタル職務
ニ背キシ時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ且損
失價高ノ四分一ヨリ多カラス五百フランクヨリ少カラサ
ル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但此規則ト此委任ヲ受ケシ者敵
ト通謀シタル時更ニ重キ刑ニ處セラル可キ規則ト相觸ル
ナカル可シ

第五十四号

○

本條ハ食物衣服及ヒ工事勞役等都テ陸海軍要スル所諸般ノ供給操作ヲ請負ヒタル者ノ其任ニ背キタルヲ罰スルナリ

此刑ノ重キ所以ハ其損害一箇人ニ對スルニアラスソ實ニ一國ノ存亡ニ關ス例セハ麵包若クハ衣服ヲ輸送セサルキハ兵士ヲシテ凍餒セシメ或ハ夫レカ爲メ敵陣ニ降服セサルヲ得サルニ至レハナリ

然レモ抗拒スヘカヲサル強迫ニ遇ヒタルキハ如何トモスヘカラス此レ本條云々セル所以ナリ

本條ハ強迫セララル、ニ非ス懈怠スルニ非ス全ク故意ヲ以テ請負ノ義務ヲ盡サ、ル者ヲ罰ス若シ敵ト通謀シタルモノハ各其本條ニ依ル第七十五條以下懈怠ニ係ルモノハ第

四百三十三條ニ在リ

第四百三十一條ハ前條ニ記シタル職分ノ委任ヲ受ケシ者ノ各代人其職務ニ背キシ時ハ前條ニ記シタル刑ニ處セラ

ル可シ
若シ此職務ノ委任ヲ受ケシ者ト其名代人ト相共ニ同上ノ重罪ヲ犯シタル時ハ共ニ同上ノ刑ニ處セラ

○
第一項ハ手代若クハ支配人等其主者ノ代理ヲ爲ス場合

ニ當リ其職務ニ背キタルヲ云フ例セハ請負人米千俵ヲ

陸軍ニ納付スルヲ受負ヒ之ヲ其支配人等ニ依托セシ

ニ支配人之ニ背キタルノ類是ナリ

民事ニ在テハ此等ノ責任其主者ニ歸スルト雖モ刑事ハ

然。其。事。ニ。從。事。シ。タ。ル。モ。ノ。皆。其。責。ニ。任。ス。故。ニ。名。代。人。
本。條。ノ。罪。ヲ。犯。シ。タ。ル。ノ。証。分。明。ナ。ル。キ。ハ。名。代。人。ヲ。罰。ス。

第三項ハ本人ト名代人ト共犯シタル場合ニ係ル

第四百三十二條 若シ政府ノ上等官吏下等官吏又ハ政府

ノ委任ヲ受ケシ者前二條ニ記シタル犯人ノ職務ニ背クヲ

助ケシ時ハ其官吏又ハ政府ノ委任ヲ受ケシ者有期ノ徒刑

ニ處セラル可シ但此規則ト敵ト通謀シタル時更ニ重キ刑

ニ處セラル可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

○

職務ニ背クヲ助ケシトハ如何ナル場合ヲ云フカ分明ナ

ラフ蓋シ請負人ノ賄賂ヲ取リ物品納付ノ期日ヲ猶豫シ

タルカ如キヲ云フカ而シテ其身分官吏ナルヲ以テ其罰

亦重キヲ加ヘリ

然ルニ從犯ハ主犯ヨリ輕キハ刑法ノ原則ナレハ本條ノ

犯者ハ從犯ナルヲ以テ主犯即チ請負者ヨリ輕カラサル

ヘカラス之ヲ重クスルハ法理ニ適セサルカ如シト雖モ

畢竟其身ノ官吏ナルニ由ルナリ

第四百三十三條 若シ全ク其職務ニ背キタルニ非スト雖

モ懈怠ニ因テ供給操作ヲ遲延セシ時又ハ供給セシ物又ハ

操作セシ物ノ性質種類分量ニ付キ詐僞アル時ハ其犯人六

月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ

ラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス百フランクヨリ少

カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此一節ノ各條ニ記シタル總テノ場合ニ於テ其罪ヲ訴フル

ハ政府ノ權ノミニアリトス

○ 懈怠ニ因テ遅延スルトハ全ク遺忘若クハ不注意ヨリ請
負期日ヲ誤ルヲ云フ

供給セシ者云々ノ詐偽ハ例セハ米千石ヲ納ムヘキニ九

百石ヲ以テ千石トシ若クハ甲質ヲ以テ製作スヘキヲ乙

質ニ換ヘ又城砦ヲ築クニ堅緻ノ石ヲ以テスヘキヲ脆薄

ノ石ヲ用ヒタルノ類

懈怠ニ因テ遅延セル者ト物品ノ性質分量等ヲ詐偽シタ

ルモノノ同視スルハ不權衡ニ似タリ宜シク之ヲ區別

スベシ

未項訴訟權ヲ政府ニ任スル者ハ其或ハ事ニ害ナキ時ハ

必シモ處罰ヲ要セサル者アラフ故ニ政府ニ任スルハ餘
地ヲ與ヘシ所ナリ

第三款 滅盡破壞損害ノ罪

本款ハ滅盡破壞損害ノ罪ト題シテ其事項ヲ混載スト雖
モ主トスル所ハ放火ノ事ナリ題目上ヨリ之ヲ觀レハ放
火罪アルヲ知ルニ由ナシ草案ノ別ニ放火ノ題目ヲ置ケ

ルニ如カス

凡ソ放火罪ハ罪質ノ最不良ナルモノニシテ之ヲ犯ス甚

ク易ク之ヲ証明スル甚ク難シ

且ツ其害獨リ一人ニ止マラスソ概皆其損害ノ償還ヲ得

サルモノナリ故ニ歐洲各國多ク死刑ヲ以テセリ

現今佛國ニテハ其一概ニ之ヲ死刑ニ處スルノ嚴酷ナル

ヲ以テ其所爲ニ因リ輕重ヲ區別ス以下各條是ナリ

第四百三十四條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 自己ノ所有タルト他人ノ所有タルトヲ問ハス人ノ居住シ又ハ居住ス可キ建造物、船舶、小舟、倉庫、木材ノ聚積場又ハ其他ノ居住シ又ハ居住ス可キ諸般ノ場所ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ死刑ニ處セラレ可シ
人ノ乘リタル車或ハ火輪車又ハ現ニ人ノ乘リタルモノニ非スト雖モ人ノ乘リタル列車ノ一部タル車ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ
人ノ居住シ又ハ居住ス可キモノニ非サル建造物、船舶、小舟、倉庫、木材ノ聚積場、森林、斫伐ス可キ大木、未タ刈取セサル穀類ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ此等ノ物己レノ所有タラ

サル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
前文ニ記シタル自己ノ所有物ニ火ヲ放チ又ハ放タシメ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ又其所有者ノ命ニ因リ火ヲ放チシ者ハ同一ノ刑ニ處セラレ可シ
堆積セシ藁又ハ刈取セシ穀類又ハ堆積セン木材又ハ商品及ヒ其他ノ品物ヲ載セタルト否トヲ論セス人ノ乘リタル列車ノ一部ニ非サル車ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ此等ノ物己レノ所有タラサル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
前文ニ記シタル自己ノ所有物ニ火ヲ放チ又ハ放タシメ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ又所有者ノ命ニ因リ火ヲ放チシ者ハ

同一ノ刑ニ處セラル可シ
己レニ屬スルト人ニ屬スルトヲ問ハス火ノ傳ハル可キ場
所ニアル物件ニ故意ヲ以テ火ヲ放チ前六項ニ記セシ物ニ
火ヲ傳ヘシ者ハ直チニ其物ニ火ヲ放チシ時ト同一ノ刑ニ
處セラル可シ

何レノ場合ニ於テモ火ヲ放チタルニ因リ其場ニアル者一
人又ハ數人ノ焚死セシ時ハ其犯人死刑ニ處セラル可シ

○
第一項人ノ居住スヘキ場所ニ放火スルハ特ニ損害ヲ蒙
ラシムルコト止マラス爲メニ人ヲ死ニ致スノ虞アルヲ以
テ法律上放火ハ謀殺ノ所作アルモノト看做ス故ニ其目
的ノ何如シテ問ハス之ヲ死刑ニ處スルナリ

自己ノ所有ト他人ノ所有トヲ問ハス云々是レ注意スヘ
シ凡ツ己レノ家屋ニ放火スルモノハ概シテ之ナキカ如
シト雖モ而カモ或ハ怨恨ヲ蒙サシカ爲メ故サラニ放火
シテ怨家ニ延焼セシメ或ハ一朝ノ憤怒ニ堪ヘサルヨリ
放火シテ他ニ損害ヲ蒙ラシムルヲナシトセス此レ自他
ヲ別タサル所以ナリ
草案モ亦自他ヲ問ハス第四百四十五條ニ人ト云ヒ其他
シトセシカ新刑法ハ單ニ人ノ住居ヲタル云々死刑ニ處
スト第四百セルヲ以テ若シ其自家ノ放火ヨリ他人ノ財
産生命ヲ滅尽シタルキハ之ヲ如何カスヘキ其第四百七
條ヲ以テ罰セシカ其所爲ニ自他ノ別アリト雖モ其結果
ハ同一ナリ然ルニ刑ニ霄壤ノ輕重ヲ生ス予未タ其可ナ

ルヲ知ラス
 又一ノ注意スヘキハ人ノ居住シ又ハ居住スヘキ建造物
 下ハ第三百九十條所載ト同一ナルヤ否是ナリ此レ從來
 大ニ議論アリ
 論者ノ言ニ曰ク第三百九十條ノ居住ト云フハ人ノ居住
 スヘキ家屋ハ勿論都テ之ニ附加スル建造物ヲ總稱ス故
 ニ之ヲ放火ノ場合ニ引據スルハ酷ニ過クルナリト又曰
 ク放火ノ罪タル社會ノ舉テ惡ム所且安寧ヲ害スル太甚
 シキヲ以テ之ヲ嚴刑ニ處シテ懲戒セサル可カラス故ニ
 本條ノ居住ハ第三百九十條ノ原則ニ依ルヘシト
 大審院ノ斷案ニハ第三百九十條ニ據ルヘシト爲ス此レ
 本項ニ又ハ他人ノ居住シ又ハ居住ニ用ユヘキ場所トア

ルニ根據セリ
 譯者曰ク本項譯文ノ又ハ居住スヘキハ居住ニ用ユヘ
 キニ改ム可ニ似タリ
 予ハ斷案ヲ允當ナリトセス第三百九十條ハ甚タ汎然ナ
 ルカ故ニ本條ノ場合ニ在テハ少ク其區域ヲ減縮スル
 事可トス然レモ已ニ斷案アリ如何ニスヘカラス
 第二項本項ハ千八百六十三年ニ追加ス同年前ハ瀛車ノ
 設ケナキヲ以テ此法律ヲ要セサルナリ
 人ノ乘込ニタル車ハ勿論縱令乘込タルニ非スト雖モ其
 列車ノ一部ニ放火シタルキハ延テ全部ニ及フノ虞アリ
 又人ト汎稱シテ旅人ト云ハサルモノハ縱令瀛車中旅人
 ナキモ機關師及ヒ役員等亦其中ニ在レハナリ

之ヲ要スルニ本項及ヒ前項ハ生命ニ關スルヲ以テ其罪重シ

第三項本項ハ財産ニ止マリテ人命ニ關セサル者ト看做スヲ以テ其刑前項ヨリ一等ヲ輕クス

前項ハ自他ノ別ナケレモ本項ニ於テハ人ノ云々トアルヲ以テ自己ノ所有物ニ放火シテ人ニ損害ヲ加ヘサルハ

ハ之ヲ罰スルヲ得ス草案第四百五十條ノ如キ場合ニ在テハ之ヲ如何カスヘキ此レ前項ト獨リ權衡ヲ失スルノ

ミナラス一缺典タルヲ免カレス
草案第四百五十條ノ如キハ法章上最モ必要トス新刑法

之ヲ削除セシハ實ニ遺憾トス
第四項本項ノ罪犯ヲ證明スルハ實際頗ル難シ何トナレ

ハ故意ト否ト其間變ヲ容レス而ソ一ハ有期徒刑トナリ

一ハ無罪トナレハナリ草案第四百五十二條ヲ看テ其宜キヲ得タルヲ知ルヘシ

第五項此レ第三項ト同義ニシテ人ナキノ列車ニ放火セル者ニ係ル

第六項ハ第四項ト同義ナリ而シテ刑ノ同項ヨリ輕キモノハ第五項ハ第三項ヨリ輕キヲ以テナリ

第七項本項ハ一讀シテ足レリ要スルニ其物件ノ何物タルヲ問ハス故意ヲ以テ之ニ放火シ因テ火ヲ前六項所載

ノ物ニ傳ヘシキハ皆直チニ其物ニ放火シタルト同視スルナリ

第八項ハ前各項中第一二項ヲ除ク外ト雖モ放火ヨリシ

テ人ヲ焚死セシメタルハ死刑ニ處スルヲ云フ故ニ放
火者ノ目的ハ藁若クハ穀類ヲ燒燬スルニアルモ農夫等
ノ其傍ニ假寐シタルニ必付スノ遂ニ焚死セシメタルモ
ノモ亦死刑ニ處セラル此レ少シク嚴ナリト云フヘシ
其焚死ニ至ラシムルトハ其家中ニ在ル人及ヒ前ニ例セ
ル農夫等ノ如キヲ云フ其火ヲ消防センカ爲メ若クハ物
品搬出ノ爲メ手傳ニ來リタルモノ焚死セタルハ本條ノ
指ス所ニアラス

○第二百十回明治十四年七月

第四百三十五條 地雷火ヲ破裂セシメ建造物、船舶、小舟、木
材ノ聚積場ヲ滅盡セシメタル者ハ前條ニ記シタル區別ニ

循ヒ刑ニ處セラル可シ

○
本條ハ前條ト精神ヲ同フス只其所爲放火ト地雷火トノ
別アルノミ故ニ前條ヲ了知セハ本條ハ講説ヲ須マス

第四百三十六條 家屋又ハ其他ノ所有物ニ火ヲ放タント
脅迫シタル者ハ第三百五條第三百六條第三百七條ニ記シ
タル區別ニ循ヒ謀殺ヲ爲サント脅迫セシ者ト同一ノ刑ニ
處セラル可シ

○
火ヲ放タント脅迫セルモノハ謀殺ヲ爲サント脅迫セン
モノト同一ノ刑ニ處セラル而シテ其區別ハ第三百五六
七ノ三條ニ依ル

第四百三十七條 (千八百六十三年五月十三日如左改△)何
 レノ方法ヲ論セス人ニ属スルコトヲ知リシ建造物、橋、堤ノ全
 部又ハ一部ヲ故意ヲ以テ滅尽シ及ヒ崩潰セシメシ者又ハ
 蒸氣器械ヲ破裂セシメシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑
 ニ處セラレ且損失價高ノ四分一ヨリ多カラス百フランク
 ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
 若シ此罪犯ニ因リ人ヲ殺シ及ヒ傷スルコトアル時ハ其犯人
 人ヲ殺スニ於テハ死刑ニ處セラレ人ヲ傷スルニ於テハ有
 期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

本條ハ前條ノ如ク放火又ハ地雷火ニ限ルニ非ス所謂眞
 ノ滅尽破壊ニシテ其如何ナル器具方法ヲ以テスルヲ問

ハス都テ之ヲ本條ニ罰ス但放火及ヒ地雷火ヲ以テシタ
 ルヨリ罪稍輕シ故ニ其刑モ亦輕シ
 人ニ屬スルコトヲ知リシ云々トアルヲ以テ其自己ノ所有
 ニ係ルハ處罰ノ限ニアラサルハ論ヲ俟タスト雖モ其レ
 判所ハ訴ヘラレベシ例セハ自己所有ノ堤ヲ決スルカ爲
 メニ他ノ田畑ヲ害シタル場合ノ如キ是也

第二項右所爲ニ因リ人ヲ殺セシキハ死刑ニ處ス猶ホ放
 火ニ於ケルカ如シ其傷スルモノハ有期ノ徒刑ニ處ス

第四百三十八條 暴行ヲ以テ政府ノ允許アル操作ノ成功
 ヲ妨クル者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間
 禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失價高ノ四分一ヨリ多カラス十

六フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
其罪犯ノ首謀ハ同上ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

此レ實際多ク之レナシ試ニ其例ヲ舉クレハ其會社ニ於
テ政府ノ允許ヲ受ケ某所ニ鐵道ヲ設ケ若クハ運河ヲ開
鑿セントスルハ自己ノ所有地ヲ敷地ニ用ヒラル、チ怒
リ暴行ヲ以テ其工業ヲ妨ケタルノ類是レナリ
本條ノ精神ハ暴行ノ二字ニ在ルヲ以テ其拒否スベキ事
由ヲ陳ヘテ之ヲ防クハ素ヨリ法律ノ問フ所ニアラサレ
モ苟モ暴行ヲ以テシタルハ其理由ノ在ルト否トチ問
ハス都テ本條ヲ以テ罰ス
又政府ニ於テ電信線ヲ架設セントスルガ如キハ一片ノ

布達ニシテ足ル人民亦此等公共ノ事業ニ就テハ其旨ヲ
領得サルヘガラス決シテ一個ノ不便ヲ以テ公共ノ利益
ヲ害スヘキ者ニアラス
本條ハ獨リ人民ノ操作ニ對スルノミニ止マラス政府ノ
施設スル操作ニ於ケル者モ亦之ニ依ル
第二項ハ徒黨共犯者ニ係ル首謀トハ其巨魁ヲ云フ
第四百三十九條 官署ノ簿册及ヒ証書類又ハ義務契約算
還ノ証タル商業或ハ銀行紙ノ券手形爲替手形証票ヲ故意
ヲ以テ焚燬シ又ハ如何ナル方法ヲ論セス之ヲ滅尽セシメ
タル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ
若シ官署ノ証書類又ハ商業或ハ銀行ノ証票ヲ滅尽セシメ
タル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

若シ其他ノ証書類ヲ滅尽セシメタル時ハ二年ヨリ少カラ
ス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フ
ラ」クヨリ少カラス三百「フ」ラ「ン」クヨリ多カラサル罰金ノ言
渡ヲ受ク可シ

本條ハ第一百七十三條第二百五十五條ノ場合ト相似タル
ヲ以テ混同視スル勿レ彼レハ簿冊証書類ヲ領置スル官
吏ニ係リ此レハ一般人民之ヲ焚燬又ハ滅尽シタル場合
ヲ云々然レハ故意云々トアルヲ以テ其過失ニ出タルハ
素ヨリ處罰スヘキニアラス
如何ナル方法云々トハ其火ニ燒クモ水ニ投スルモ其方
法ノ如何ヲ問ハサルヲ云フ而シテ其犯者ハ二個ノ區別

ニ因テ罰セラル以下二項是也

第二項官署ノ証書銀行ノ証票ハ社會ノ信用特ニ厚ク隨
テ其害一般ニ及フヲ以テ他ノ一己人ニ對スルモノヨリ
其罪ヲ重クスル亦宜ナリ

第三項ハ係ル所狹シ故ニ其罪輕シ

第四百四十條 郡衆ヲ爲シ且顯然ノ暴行ヲ以テ品物、商品、
証票、動産類ヲ掠奪毀損セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可
ク且其各犯人ハ二百「フ」ラ「ン」クヨリ少カラス五千「フ」ラ「ン」ク
ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此レ一人一個ニテ爲シタルニ非スノ群衆ヲ以テ顯然ノ
暴行ヲ爲シタル場合ヲ云フ約言セハ一揆ノ小ナルモノ

第四百四十一條 人ノ挑唆ニ因リ又ハ人ニ鼓舞セラレテ前條ニ記セシ暴行ニ加ハリタルノ証アル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

挑唆ト鼓舞トハ少シク別アリ挑唆ハ意ヲ示シテ之ニ加入セシムルナリ鼓舞ハ其勢ニ感動セラレ若クハ利慾ニ蔽ハレテ自ラ加入スルナリ
右二個ノ所爲ヨリシテ前條ノ暴行ニ加ハリタル者ハ懲役ニ處スル
本條處スルヲ得ヘシトアルヲ以テ亦此罪犯チ前條ノ有期ノ徒刑ニ問ヒ若クハ本條ノ懲役ニ處スルヲ得是

判官ノ意見ニ在リ
譯者曰ク原書ニ依レハ處セラルヘシハ處スルヲ得
此レ教師ノ云々セル所以ナリ
第四百四十二條 前ニ記スル所ノ暴行ニ因テ穀物、粗惡ノ穀物、穀粉、諸般ノ粉ト爲スヘキ物、麪包、葡萄酒又ハ其他ノ飲料ヲ掠奪損敗セシ時ハ其暴行ノ首謀及ヒ挑唆鼓舞ヲ爲シタル者又至重ノ有期ノ徒刑ニ處シ且第四百四十條ニ記シタル至重ノ罰金ヲ言渡ス可シ

本條ハ前二條ニ比スレハ其刑重シ然ル所以ハ本條所載ノ事件ハ公衆ノ生命ニ影響スルイアルヲ以テナリ至重云々トアレハ二十年ノ徒刑ト五千フランノ罰金ニ處

セラルヘシ此レ其首謀及ヒ挑唆鼓舞ヲ爲シタル者ニ係
ル加功者ハ加重セズ仍ホ前條ノ刑ニ處ス

第四百四十三條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)物
ヲ腐爛セシム可キ流動物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ニ因リ故
意ヲ以テ商品又ハ製造ヲ爲ス可キ品物或ハ器具ヲ損敗シ
タル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮
ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス十六フ
ラシクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
若シ製造所ノ工丁又ハ商家ノ使用ヲ受クル者其罪ヲ犯シ
タル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮
ノ刑ニ處セラル可シ但此規則ト其犯人前項ニ記シタル罰
金ノ言渡ヲ受ク可キ規則ト相觸ル、トナカル可シ

○ 此レ多クハ製造品ニ係ル例セハ硫酸ヲ以テ織物若クハ
絲類ヲ腐蝕セシムルノ類此罪犯ハ獄子嫉妬又ハ復讐等
ヨリ來ルナリ

工丁及ヒ使用ヲ受クル者ニ在テハ其罪重キヲ加フ此レ
婢僕ノ雇主ニ於ケルト同シク其信用ニ背クヲ以テナリ

第四百四十四條 未タ刈取セサル穀類又ハ天生人工ノ草
木類ヲ荒殘セシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサ
ル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

又其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ五年ヨリ少カラス十年ヨ
リ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○ 以下ハ同條ノ旨ニ據リテ解釋スルニ當リテハ其旨ニ依リテ

本條以下ハ田畑森林等ニ關スル事項ニシテ其罰頗ル嚴
 ナリトモ、又天生トハ自然ニ生出スルモノヲ云ヒ人工トハ播種培養
 等ニ係ルモノヲ云フ
 又天生トハ自然ニ生出スルモノヲ云ヒ人工トハ播種培養
 等ニ係ルモノヲ云フ
 荒殘トハ播種シタル場所ヲ車ヲ牽キ馬ヲ奔ラセ或ハ茅
 草ノ種子ヲ蒔テ他ノ生芽ヲ害スル等ヲ云フ要スルニ前
 條ト同シトハ、煇、若クハ、復、警、上、ヨリ、生、ス、ル、罪、犯、ナ、リ
 本條自他ノ區別ナシ然ルニ自己ノ所有田畑ヲ荒殘スル
 カ如キハ瘋癲者ニ非ルヨリハ決シテ之レナシ假令ヒ之
 有ルモ他ニ損害ヲ及ホスヨクハササルヘシ
 然レモ自他ノ區別ヲ明記セサルモノハ以テ特記ヲ要セ
 ストセルカ將タ念ノ此ニ及ハサリシカ知ル可カラサル

第二項ハ例ニ依ル
 第四百四十五條 他人ニ属スルヲ知リタル樹木一根又ハ
 數根ヲ斫伐セシ者ハ其斫伐シタル樹木ノ每根ニ付キ六日
 ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ
 ル可シ但其斫伐シタル樹木ノ數如何ニ多キ時ト雖モ其犯
 人ヲ五年以上禁錮ノ刑ニ處ス可カラス

○ 他人ニ属スルヲ知リタルハ本條ノ眼目ナリ何ト
 知レハ自己ノ所有ト認メ過テ他人ノ樹木ヲ斫伐スル
 アレハナリ
 本條ニ根毎ニ六月ノ禁錮ニ處スルトモハ拾根ニテ本條

ノ最長期五年ノ禁錮ニ處セラル可シ而シテ五年以上ニ
 上ホステ得ストセハ拾根ヨリ以上ハ百千ニ及フモ仍ホ
 同刑ナリ此レ權衡ノ平ヲ得タルモノト云フヘカラス
 本刑ノ頗ル重キ所以ハ其一根ヲ斫伐サル、モ之ヲ舊觀
 ニ復スルヨハ多年ノ日子ヲ費ヤサ、ルヲ得ス決ノ容易
 ノ事ニ非サレハナリ

第四百四十六條 樹木ヲ枯死セシム可ク之ヲ傷ケ又ハ斫
 リ又ハ其皮ヲ剝去セシ者ハ其樹木ノ每根ニ付キ前條ニ同
 シキ刑ニ處セラル可シ

前條ハ斫リ倒スコニシテ本條ノ斫リトハ之ヲ突キ若ク
 ハ切目ヲ附クル等ニテ樹木ヲ傷フヲ云フ然レモ枯死セ

シムヘク云々トアルヲ以テ枯死シタル時ニアラサレハ
 本條ニ問フヲ得ス

第四百四十七條 接木一根又ハ數根ヲ損害シタル者ハ其
 接木ノ每根ニ付キ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル
 時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但其損害セシ數如何ニ多キ
 時ト雖モ其犯人ヲ二年以上禁錮ノ刑ニ處ス可カラス

此レ前第四百四十五條ニ同シ唯其接木タルノ別アルノ

要スルニ接木ハ小サキ萌芽ヲ揆ムヲ以テ僅ニ之ニ觸ル
 モ損シ易シ是レ第四百四十五條ヨリ刑ノ輕キ所以ナ

第四百四十八條 若シ街衢、道路、市街、往還、小路、傍徑ニ植タル樹木ヲ斫伐シ又ハ積害シタル時ハ第四百四十五條及ヒ第四百四十六條ニ記セシ場合ニ於テハ其犯人ヲ禁錮スル至輕ノ刑二十日ヨリ少カラス第四百四十七條ニ記セシ場合ニ於テハ其至輕ノ刑十日ヨリ少カラサル可シ

此其樹木公衆ニ屬セルヲ以テ其刑稍重シ故ニ第四百四十六條ノ處罰ヲ爲スルモ其禁錮ノ下限ヲ二十日トス本條ニ於テハ其下ニ限ヲ十日トス

グロース氏佛蘭西刑法講義

第五十五号

○第二百十一回明治十四年八月

第四百四十九條 他人ニ属スルヲ知りタル穀類又ハ牛馬ニ喂ス可キ草類ヲ刈伐セシ者ハ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此レ猶ホ前條ニ繼シ解説ヲ須タス

第四百五十條 若シ前條ニ記シタル犯人未熟ノ穀類ヲ刈伐セシ時ハ二十日ヨリ少カラス四月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此一條ト前六條トニ記シタル場合ニ於テ官吏ノ行フ所ノ職務ニ付キ其官吏ヲ恨ミテ其罪ヲ犯シタル者ハ

其各條ニ記シタル刑中ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ
又官吏ヲ恨ムニ非スト雖モ夜間ニ此罪ヲ犯シタル者
ハ亦前項ニ記スル刑ニ處セラル可シ

○ 此レ其所爲前條ニ異ナルヲナキモ其害稍多キヲ以テ罪
亦重キヲ加フ

何ソヤ未熟ノ穀類ヲ刈伐スルハ一ニハ天物ヲ暴殄シニ
ニハ被害者ニ損害ヲ受ケシムル殊ニ甚タシケレハナリ
第四百四十三條以下ハ都テ私欲ノ爲メニスルニ非ス
多クハ怨恨ヨリ出ツル者トス而シテ本條二三ノ兩項ハ其
特別ノ場合ニ係ル

官吏ヲ恨ムトハ例モハ治安裁判所ニ於テ敗訴トナリ己

レノ不利ナルヨリ判官ヲ怨ミ其私有ノ穀類ヲ刈伐シタ
ルノ類

此場合ニ在テハ都テ至重ノ刑ヲ科ス前條ニ在テハ二月
本條ニ在テハ四月トナスカ如シ

第三項ハ官吏ニ係ルト否トヲ問ハス一般夜間ニ係ルノ
犯罪ヲ云フ

第四百五十一條 農業ノ器具、獸園看守人ノ小舎ヲ破
壞セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○ 佛國ニテハ農業上多ク器械ヲ用ヒ而シテ耕作ノ間ハ大概
其器械ヲ其地ニ置ク日本ト同シカラス

獸園ハ牧畜ヲ入ル、カ爲メニセシ矢來ノ如キ者ニシテ
 甲乙地轉置シ易カラシムルナリ
 看守人ノ小舎ハ田畑牧場等ヲ看守スル者ノ爲メニ設ケ
 所ナリ
 右等ノ物ヲ破壊スル者一年以下ノ禁錮トシテスハ重キニ
 似テセハ農ノ事ハ輕視ス可カラサルヲ以テナリ
 第四百五十二條 馬又ハ其他車ヲ挽シメ或ハ騎行ノ
 用ニ供シ或ハ物ヲ載スル用ニ供ス可キ獸類又ハ牛、羊
 山羊、豚又ハ池沼ニ養フ魚ニ毒物ヲ與ヘシ者ハ一年ヨ
 リ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ
 ラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ
 多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ裁判所

ノ言渡ニ因リ二年ヨリ少カラス五ヨ年リ多カラサル
 時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

本條ハ汎視スヘキ者ニ非ス即チ本文明示スル者ニ限ル
 ト知ルヘシ玩弄ニ係ル猫若クハ狗等ノ家畜ニ在テハ此
 限リニ在ラス第四百七十九
 本條ノ所業ハ甚ク卑怯ニ屬ス此レ其人ニ怨恨アルモ畜
 類何ソ知ラソ然ルチ故サラニ毒殺スルカ如キハ殘忍懸
 ハヘキノ甚クナリ本條ノ刑ノ重キ宜ナリ
 若シ此際主タル者覺知シテ之レカ手當ナシ幸ニ死ニ
 至ラサル時ハ如何ン此レ仍ホ第三百一條毒殺ノ原則ニ
 準ンテ處スルノ外ナシ

第四百五十三條 己ムヲ得サルニ非スシテ前條ニ記シタル獸類ノ一ヲ殺セシ者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ若シ其獸類ヲ蓄ヒ置シ者ノ所有シ又ハ借受シ家屋又ハ繞圍ヲ爲シタル場所又ハ其附属ノ場所又ハ土地内ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ犯人ノ所有シ又ハ借受ケシ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ前ノ二項ニ記シタル以外ノ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ十五日ヨリ少カラス六週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

何レノ場合ニ於テモ塀牆ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシ時ハ其刑中ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

○

本條ハ己ムヲ得サルノ語ニ注意スルヲ要ス

半馬ノ如キハ往々暴怒シテ人ニ觸レ人ニ抗スルヲアリ

此際之レヲ防グカ爲メニ殺シタルハ所謂正當ノ防衛ニ

シテ己ムヲ得サル者ナリ然ラスシテ徒ニ之レヲ殺シタ

ル時ハ本刑ニ處ス其細則ハ各項ニ記スルカ如シ

第一ハ其獸類ノ在ル所ニ到リテ之ヲ殺スナリ故ニ刑重

第二ハ獸類ノ其場所ヲ離レテ我所有地等ニ來リシ者ヲ

殺スナリ故ニ稍輕シ

第三ハ前兩項外ノ地即チ道路等ニ在テ殺シタル時ニ係ル故ニ又重シ

第四ハ特ニ加重罪ノ場合ヲ示ス

本條ノ前條ノ刑ニ輕重アル者ハ前條毒殺ハ其所爲最モ惡ムヘクノ事全部ニ係ル本條ハ一個ニ止マレハナリ

茲ニ疑義アリ若シ之ヲ殺サズシテ止マ之ヲ傷ケタルトキ如何ノ刑法上明文ナキハ不備ト謂フヘシ

故ニ千七百九十一年ノ田野ニ關スル規則中ニ傷シタル者ハ一月殺シタル者ハ六月ノ禁錮云々トアルニ依テ

所分ス此レ第四百八十四條ニ基クナリ

第四百五十四條 已ムヲ得サルニ非スシテ家畜獸類

ヲ蓄ヒ置キシ者ノ所有シ又ハ借受ケシ場所ニ於テ其

獸類ヲ殺セシ者ハ六月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラ

サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ塀牆ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシ者ハ其刑中ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

此レ第四百五十二條ノ外一般ノ家畜ヲ云フ即チ前ニ汎

視ス可カラスト云ヘル者ニ對シテ見ルヘシ然ルニ本條ニハ畜類ヲ其場所外ニテ殺シタルノ事ナシ

是レ如何カスヘキ第四百七十九條第一項ニ依ルヘシ若シ以下ハ前條ノ手續ニ同シ

第四百五十五條 第四百四十四條ヨリ前條ニ至ル迄

ノ各條ニ記シタル場合ニ於テハ其犯人損失償高ノ四

分一ヨリ多カラス十六フランクヨリ少カラサル罰金
ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百四十四條以下罰金ノ一キシ故ニ茲ニ之ヲ總括シ
テ其併加スルコトヲ得ルヲ云フ

第四百五十六條 溝渠ヲ填メ又ハ塀牆ノ何物ヲ以テ
造リタルヲ論セス之ヲ破壊シ又ハ植籬或ハ編牆ヲ斫
リ毀チ或ハ拔キ採リシ者又ハ土地ノ經界ヲ定ムル爲
メ置キタル物或ハ石或ハ其經界ヲ定ムル爲メ植タル
樹木或ハ其經界ノ限定ヲ爲スヲ衆庶ノ通知シタル樹
木ヲ移動シ又ハ毀棄セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高

ノ四分ノ一ニ當ル可キ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但其罰
金ハ何レノ場合ニ於テモ五十フランクヨリ少ナキコ
トナカル可シ

此レ專ラ土地田畑等ノ境界ヲ侵掠スルノ所爲ヲ制スル
ナリ

凡ソ土地田畑ノ輕界ハ木ヲ以テスルアリ石若クハ溝渠
等ヲ以テスルアリ都テ此等ノ物ヲ以テ境界ヲ限定セル
ヲ故サラニ移動スルガ如キハ皆本刑ニ處ス

衆庶ノ通知トハ世人ノ普ク知レルト云フノ意味ナリ
罰金ノ下限ヲ五十フランクトスル者ハ皆其所爲ノ不真

ナルヲ以テナリ

第四百五十七條 土地ノ所有者或ハ借主又ハ水車、製造所、池沼ノ所有者當然ノ權利アル者ノ限定シタル高サ以上ニ疏水ノ路ヲ造リテ道路或ハ他人ノ所有スル地ニ其水ヲ流溢セシメシ時ハ損失價高ノ四分一ヨリ多カラス五十「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ此水ノ流溢セシニ因リ毀壞シタル時ハ其犯人罰金ノ外六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

本條ハ制限ニ違フテ疏水セシ者ヲ處罰スルノ法ナリ
當然ノ權利アル者トハ掛リ官吏若クハ其筋ノ者ト云フ

ニ同シ

第二項ハソレカ爲メニ道路等ヲ毀壞スルモノナリ故ニ重キヲ加フ

第四百五十八條 他人ノ動産或ハ不動産ニ接近セシ竈、煙突、鑄造所、家屋、製造所ノ舊敗シ或ハ其修理、掃除ヲ怠リ又ハ田野ニ於テ家屋、建造物、森林、草叢、園庭、植附場、植籬或ハ穀類、藁類、枯草、牛羊ニ隈ス可キ草類ヲ堆積シタル物或ハ其他焚燒ス可キ品物ヲ貯ヘタル所ヨリ百「メートル」以内ノ距離ニ於テ火ヲ燃ヤシ又ハ諸般ノ燃火、點火ヲ忽略ニシ又ハ疎略ニ煙火ヲ弄シタルニ因リ他人ノ動産或ハ不動産ヲ燒キタル者ハ五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金

ノ言渡ヲ受ク可シ

○

本條ハ罪ノ粗虞懈怠ヨリ起レルモノナリ之ヲ要スルニ
違警罪ヨリ稍重キ者ト知ルヘシ故ニ罰金ニ止ム

第四百五十九條 傳染病ニ罹ルノ疑アル獸類ヲ所有
シ又ハ看守スル者其邑長ニ速ニ其事ヲ告知セサル者
及ヒ邑長ニ其事ヲ告知スト雖モ其回報ヲ得ルノ前其
獸類ヲ鎖閉シ置サル者ハ六日ヨリ少カラス二月ヨリ
多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランク
ヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言
渡ヲ受ク可シ

此レ傳染病ニ罹レルノ疑アル獸類アル時ハ速ニ其筋ニ
告知セサル可カラズ本條ハ其裁制ニ係ル

本條ノ二月以下二百フランク以下ノ罰ニ處スルハ或ハ
重キニ似タリト雖モ特ニ其害ノ頗ル汎ナルヲ以テナリ
疑ヒアルト云フハ猶ホ嚴ナルカ如シト雖モ牛馬ノ類ハ
病アル時ハ頭ヲ下ケテ食物ヲ喫セサル等其容体甚々看
認メ易キ者ナリ故ニ必シモ漠然タル者ヲ罰スルニハ至
ラサルナリ

第四百六十條 官署ノ禁制ニ背キ傳染病ニ罹リタル
獸類ヲシテ他ノ獸類ト雜處セシメシ者ハ二月ヨリ少
カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ
且百フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラ

サル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此レ前條ノ續キナリ前ハ其疑ヒアル者ノ場合ニシテ本條ハ其邑長ノ検査ニ由テ果シテ傳染病ト決定シタル後ノ事ニ係ル

已ニ傳染病ト確定シタル以上ハ各其法アリ依テサルヲ得ス違フ者ハ本刑ニ處ス

第四百六十一條 若シ前條ニ記シタル獸類ヲ雜處セシメシニ因リ他ノ獸類ヲシテ傳染病ニ罹ラシメシ時ハ官署ノ禁制ニ背キ其罪ヲ犯シタル者二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス千フランクヨリ多カラサル

罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト獸類ノ傳染病ニ管シタル法律及ヒ規則ヲ行フ事並ニ其法律及ヒ規則ニ背キタル罪ヲ罰ス可キ事ト相觸ル、一ナカル可シ

此レ前條ノ場合ヨリ更ニ一層ヲ進メタル者ナリ前條ハ雜處セシメタル者ノ罰ニシテ本條ハ雜處ヨリ生スル所ノ害即チ其結果ヲ罰ス

已ニ雜處セシメシテ其一村村落等ニ傳播セシメタルカ如キハ其害實ニ大ナラスヤ是レ罰ノ重キヲ加フル所以ナリ

但以下ハ其特ニ傳染病ニ關スル法律規則アル者ハ其法規ニ依テ罰スルヲ明示ス

凡ソ刑典上示ル所ノ外ハ皆其定規ニ由リテ處分ス刑典
 アルガ爲メニ別法ヲ廢停セス
 第四百六十二條 若シ田野或ハ森林ノ看守人又ハ名
 義ノ如何ヲ問ハス警察官吏此一章ニ記シタル輕罪ヲ
 犯セシ時ハ其犯人ヲ禁錮スル期限一月ヨリ少カラス
 又其輕罪ノ他ノ犯人ヲ處ス可キ至重ノ刑ニ更ニ其三
 分一ヲ増加シタル時間ヨリ多カラサル可シ

○ 田野森林看守人ノ如キハ監視ノ任ニ居ル者ナリ其任ア
 ル者ニシテ爲スマシキヲ爲スカ故ニ其刑ヲ加重ス他
 警察官吏モ亦同シ

○ 第二百十二回 明治十四年八月

第四編 註誤ノ罪及ヒ其刑(千八百十年二月二十
 日決定三月二日布告)

諸君ノ已ニ知レルカ如ク本編ハ違警ノ罪ニシテ三種罪中
 ノ下級ニ在リ事ノ最モ輕微ナルモノトス之ヲ他ノ二罪
 ニ比スレハ必要ナラサルカ如クナレトモ決シ然ラズ唯
 其大小ノ別アルノミ
 違警罪ノ設ケタル多ク重輕罪ノ如キ生命財産ヲ保護ス
 ルノ目的ニ出ツル者アラズ各條ニ就テ觀レハ自ラ知ル
 一ヲ得ヘシ今其要領ヲ畧言セン
 違警罪ハ概テ道路ノ清潔人民ノ安堵平寧ヲ保護スルニ
 在リ

故○他○ノ○重○罪○如○キ○ハ○的○然○刑○法○ニ○條○載○シ○テ○一○般○ニ○適○
 施○ス○ヘ○シ○ト○雖○モ○違○警○罪○ハ○則○チ○然○ラ○ス○何○ノ○ナ○レ○ハ○其○事○
 各○地○人○情○風○俗○ニ○隨○フ○テ○取○捨○ス○ヘ○ケ○レ○ハ○ナ○リ○是○レ○其○
 姑○ラ○ク○一○般○ニ○適○施○ス○可○キ○者○數○十○件○取○テ○此○ニ○條○載○シ○他○
 第○四○百○七○十○一○條○中○ニ○第○十○五○ノ○一○項○テ○設○ケ○テ○邑○長○ニ○適○
 宜○制○定○セ○シ○ム○ル○所○以○ン○ナ○リ○
 然○レ○モ○其○十○五○項○ニ○於○テ○罰○金○ヲ○一○フ○ラ○ン○ク○以○上○五○フ○ラ○ン○
 ク○以○下○ト○限○レ○ル○ハ○不○可○ト○ス○草○案○四○百○七○十○八○條○ノ○一○日○以○
 上○十○日○以○下○五○錢○以○上○一○圓○九○十○五○錢○以○下○ト○シ○テ○汎○ク○判○官
 ニ○取○捨○ノ○權○ヲ○與○ヘ○斟○酌○所○分○ス○ル○ト○得○セ○シ○ム○ル○ニ○如○カ
 ス○邑○長○ノ○定○ム○ル○所○ト○雖○モ○必○ス○シ○モ○輕○キ○者○ノ○ミ○ト○セ○ス○或
 ハ○違○警○罪○最○重○ノ○刑○ヲ○以○テ○セ○サル○ヲ○得○サル○場○合○ア○リ○佛○刑

ハ○制○限○ス○ル○所○ア○ル○カ○故○ニ○其○當○テ○得○ル○ト○能○ハ○サ○ル○者○往○々
 之○レ○ア○リ
 違○警○罪○ハ○其○所○爲○ノ○故○意○ト○無○意○ト○ハ○同○ハ○ス○一○般○ニ○之○ヲ○罰
 ス○故○ニ○其○規○則○ニ○違○犯○シ○タ○ル○以○上○ハ○別○ニ○何○等○ノ○辨○明○ヲ○爲
 サ○シ○ム○ル○ヲ○要○セ○ス
 例○セ○ハ○第○四○百○七○十○一○條○第○三○項○ノ○燈○火○ヲ○點○ス○ヘ○キ○定○則○ニ
 背○キ○タ○ル○者○ア○ラ○ズ○ニ○ハ○其○事○情○ノ○如○何○ヲ○問○ハ○ス○家○主○ヲ○罰
 ス○故○ニ○其○家○主○タ○ル○者○預○シ○メ○僕○ニ○點○火○ヲ○命○セ○シ○ニ○僕○ノ○失
 念○ヨ○リ○此○ニ○至○レ○リ○ト○云○フ○カ○如○キ○假○令○其○事○實○ニ○相○違○ナ○キ
 モ○以○テ○免○罪○ス○ル○ト○得○ス○責○必○ス○家○主○ニ○歸○ス○唯○多○少○ノ○酌
 量○ヲ○得○ン○ノ○違○警○罪○ハ○本○ト○過○誤○ヲ○罰○ス○ル○ニ○外○ナ○ラ○ス○諸
 君○先○ツ○此○ヲ○理○會○ス○ル○ヲ○要○ス

抑人民ノ稍開化ニ赴クヤ固ヨリ法ヲ制シ律ヲ定メ其健康ヲ護シテ其安堵ヲ保守セサルコトヲ得ス而シテ開化ノ度ニヨリ法制モ亦隨テ變更セサル可カラズ況ンヤ僅カニ野蠻ノ域ヲ出ルニ於テハ警察ノ法以テ之ヲ裁制スヘキモノ蓋シ甚ク多シ往昔羅馬國ニテハ「エシリテ」ト名ツクル官ヲ置キ方今違警ト稱スルカ如キノ小罪ヲ監察懲治セシメタリ佛蘭西國モ古ヨリ違警罪ヲ處スルノ法アリシカ千七百八十九年國法議會ヲ新設スルノ日ニ至ル迄ハ其法確定セズ且州郡都市ノ法區々ニシテ統一スル所ナク風俗人情ニ適セサル者頗ル多シ是ニ於テ國法議會ニ先ツ國事警察ノ業ヲ終ヘ後テ邑警察ノ法ヲ定メテ之ヲ律書ニ編セリ然レモ其大目ハ既ニ千七百八十九年

七月十九日ノ邑廳ヲ建設スルニ關スル布令書中ニ見ヘタリ其文ニ曰邑官ノ職ハ管下ノ民ヲシテ清潔健康安堵ノ利ヲ占メ道路公場及ヒ公設ノ堂證觀閣ヲ保護スルニアリト是ニ因テ之ヲ觀レハ清潔健康安堵平寧ノ四事以テ違警罪ヲ置キテ邑警察ノ制ヲ定ムルノ主意ヲ概知スルニ足ル

第一章 註誤ノ刑

第四百六十四條 註誤ノ刑ハ左ノ如シ

禁錮

罰金

品物ノ沒收

第四百六十五條 註誤ノ罪ノ爲メ言渡ス所ノ禁錮ノ

時間ハ後ニ記シタル種類ト區別トニ循ヒ一日ヨリ少
 ナキコナク五日ヨリ多キコナカル可シ
 一日禁錮スルノ期限ハ二十四時間トス
 第四百六十六條 註誤ノ罪ニ付キ言渡ス可キ罰金ハ
 後ニ記シタル種類ト區別トニ循ヒ一「フランク」ヨリ少
 カラス十五「フランク」ヨリ多カラサル可シ但其罰金ハ
 註誤ノ罪ヲ犯シタル地ノ邑ノ利益ニ用フ可シ
 第四百六十七條 犯人ヲシテ罰金ヲ償ハシムル爲メ
 之ヲ禁錮ス可シ
 然レモ犯人其罰金ヲ償フコト能ハサルノ證アル時ハ十
 五日以上ノ時間禁錮ス可カラス
 第四百六十八條 罰金ヲ出ス可キ事ト民事ノ原告人

ニ品物ヲ還シ及ヒ其損失ヲ償フ可キ事ト相觸レテ犯
 人ノ財産其總高ニ充タサル時ハ罰金ヨリ前ニ民事ノ
 原告人ニ品物ヲ還シ且其損失ヲ償ハシム可シ
 第四百六十九條 若シ犯人民事ノ原告人ニ品物ヲ還
 シ又ハ其損失ヲ償ヒ或ハ裁判所費用ヲ償ハサル時ハ
 之ヲ禁錮シ其犯人全ク其總高ヲ出スニ至ル迄之ヲ禁
 錮シ置ク可シ然レモ政府ニ此等ノ償ヲ爲サシムル爲
 メ犯人ヲ禁錮シタル時若シ其犯人第四百六十七條ニ
 記シタル如ク其償ヲ爲スノ資産ヲ有セサル確証アル
 ニ於テハ其犯人其條ニ記シタル所ノ權利ヲ行フコトヲ
 得可シ
 第四百七十條 又註誤罪ノ裁判所ニテ法律上ニ定メ

タル場合ニ於テハ犯人ノ註誤罪ニ付キ沒取セシ品物
又ハ註誤罪ニ因リ犯人ノ得タル品物又ハ其罪ヲ犯ス
ニ用ヒ或ハ用ヒント爲シタル品物及ヒ器具ヲ沒取ス
ルヲ言渡スヲ得可シ

○
本章ハ刑例ナリ

第四百六十六條違警罪ノ罰金ハ其邑ノ收入ニシテ重輕罪
ノ如ク之ヲ國庫ニ納メテ是レ違警罪ハ其邑内ノ事ニ
係レハナリ

第四百六十七條ハ千八百六十七年ノ規則ニヨレハ改正
シテ罰金ヲ償還スルヲ能ハサル者ト雖モ五日以上禁錮
スルヲ得ストナセリ

第四百六十八條ハ第五十四條ノ例ニヨル復タ註釋ヲ要
セズ

第四百六十九條モ亦右四百六十七條ト同時ニ消滅ニ屬
ス

第四百七十條ハ重輕一般ノ規則ナリ第十一條ヲ看ム蓋
シ特ニ別記スルヲ要セサルナリ

第二章 註誤ノ罪及ヒ其刑

第一款

第一種

第四百七十一條

第一 火ヲ焚ク可キ竈、隙竈、製造所ヲ修理シ又ハ掃
除スルヲ怠リシ者

第二 別段定マリシ地ニ於テ烟火ヲ弄スルノ禁ヲ犯セシ者

第三 燈火ヲ點ス可キ定則ニ背キテ其事ヲ怠リタル旅店ノ主人及其他ノ者又ハ邑ノ人民自カラ街路小徑ヲ掃除ス可キ邑ノ規則アル時其事ヲ怠リタル者

第四 已ムヲ得サルニ非スシテ通行ノ自在又ハ安寧ヲ妨ク可キ品物ヲ道路ニ置キ妨ヲ爲ス者又ハ街衢ニ置キタル品物或ハ街衢ニ穿チシ穴ニ火ヲ點ス可キ法律規則ニ背キシ者

第五 小徑ニ管スル規則ヲ執行スルコトヲ怠リ或ハ其事ヲ肯セサル者又ハ崩壞セントスル家屋ヲ修

復シ或ハ取除ク可キ官署ノ命ヲ循守スルコトヲ怠リ或ハ其事ヲ肯セサル者

第六 墜落シテ人ノ害トナル可キ物又ハ惡氣ヲ發シテ人ノ害トナル可キ物ヲ家屋ノ前ニ展示シ或ハ抛擲セシ者

第七 道路、小徑、街衢、田野ニ鋤、鋏、木槌、鍬、鋸、又ハ其他盜賊及ヒ兇行ヲ爲ス者ノ用トナル可キ兵器或ハ器具類ヲ遺留セシ者

第八 法律上ニ田野又ハ園庭ノ齟齬ヲ掃フ可キコトヲ定メタル時其事ヲ怠リシ者

第九 別段法律上ニテ罰ス可キ他ノ罪犯ノ情狀ヲ知シテ他人ニ屬スル稟實ヲ盜ミ又ハ其場所ニテ

食ヒシ者

第十 別段法律上ニテ罰ス可キ他ノ罪犯ノ情狀ナクシテ未タ穀類ヲ全ク刈取セサル田野ニ於テ日出前又ハ日没後ニ刈殘シタル穀類ヲ鈎竿ヲ用ヒ爬集シ又ハ葡萄園内ニ於テ摘殘シタル小サキ葡萄ヲ摘取セシ者

第十一 人ヨリ害ヲ受クルニ非スシテ人ニ對シ三百六十七條ヨリ三百七十八條ニ至ル迄ノ各條ニ記シタルヨリ以外ノ誣罔ヲ爲シタル者

第十二 疎忽ニ因テ人ニ汚穢物ヲ抛擲セシ者

第十三 土地ノ所有者又ハ入額所得者又ハ借主又ハ賃ヲ出シテ借受ケ耕作ヲ爲ス者ニ非ス又ハ其

所有者入額所得者借主ノ代人或ハ其任ヲ受クル者ニ非ス又ハ其土地ヲ通行スルノ權ナクシテ其土地ニ穀草ヲ植ユ可キ預備ヲ爲シタル時又ハ種子ヲ蒔キタル時ニ當リ其地又ハ其一部ニ入り通行シタル者

第十四 他人ニ屬スル地ニ於テ未タ穀物ヲ刈取セサル前ニ車ヲ挽カシメ又ハ物ヲ負載セシメ又ハ騎行ニ用フル獸類ヲ通行セシメタル者

第十五 法律ニ循ヒ設ケタル官署ノ規則ニ背キタル者及ヒ千七百九十年八月十六日ヨリ二十四日ニ至ル迄ノ間ニ立タル法律第十一章ノ第三條第四條及ヒ千七百九十一年七月十九日ヨリ二十二

日ニ至ル迄ノ間ニ立タル法律第一章ノ第四十六
條ニ循ヒ邑廳ヨリ布告シタル規則ニ背キタル者
此等ノ者ハ「フランク」ヨリ少カラス五「フランク」ヨリ
多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○ 此レ罪目トス

第四百七十二條 前條ノ第二ニ記シタル場合ニ於テ
差押ヘタル烟火及ヒ同條ノ第七ニ記シタル鋤、鋏及ヒ
其他ノ兵器器具類ハ之ヲ沒収ス可シ

○ 此レ沒収物ヲ指示ス故ニ此指示スル所ノ者ニ非サレハ
沒収スルコトヲ得ス 第四百七十條法律上ニ定メタル場合云

トアル是也

第四百七十三條 又烟火ヲ弄シタル者及ヒ第四百七
十一條ノ第十ニ記シタル如ク刈殘シタル穀類ヲ鈎竿
ヲ用ヒ爬集シタル者又ハ葡萄園内ニ於テ摘殘シタル
小サキ葡萄ヲ摘取セシ者ハ其時ノ景況ニ因リ三日ヨ
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得可シ

○

第四百七十一條第二項ヲ物件ハ前條ニ於テ其必ス沒収
スヘキヲ示シ本條ニ於テ仍ホ之ヲ禁錮スルコトヲ得ルヲ
云フ是レ其事ノ重ケレハナリ

第十項ノ如キハ其所業ノ竊盜ニ準スルヲ以テ輕シトセ
ス此レ禁錮ヲ用フル所以ナリ

其全ク刈リ若クハ摘取リタル跡ニ遺セル不用ノ者ヲ拾フカ如キハ別ニ害ナシト雖モ未タ全刈セサル者ヲ取ルハ盗ト相去ル一問ノモ

第四百七十四條 第四百七十二條ニ記シタル各犯人再犯シ罪アル時ハ三日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此レ再犯者ニハ三日以下ノ禁錮ヲ科スルコト云フ其細則ハ第四百八十三條ニ至レハ分明ナリ

第二款

第四百七十五條

第一 葡萄ヲ取納ヲ公布スル規則及ヒ其他取納ヲ公布スル規則ニ背キシ者

第二 旅店又ハ家具ノ備リシ家屋ニ宿泊シタル者ノ姓名身分住所出入ノ日附ヲ簿冊ニ剩白ナク連綴シテ記入スルコトヲ怠リシ旅店又ハ家具ノ備リシ家屋ノ主人又ハ其簿冊ヲ規則ニ定メタル時間又ハ求需ヲ受ケシ時ニ於テ邑長又ハ其輔佐又ハ警察官吏又ハ特ニ其任ヲ受ケシ者ニ示サ、ル者但此條ノ規則ト第七十三條ニ記シタル如ク旅店又ハ其家屋ニ宿シタル者ノ姓名ヲ規則ニ循ヒ登記セサル時其宿セシ者ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルニ付キ其主人ノ其罪ヲ擔當ス可キ規則ト相觸

ル、オナカル可シ

第三 馬又ハ車ヲ挽カシメ或ハ物ヲ負載セシムル
 獸類及ヒ車ニ添テ常ニ之ヲ引導シ得可キ場所ニ
 アル可キ規則ニ背キ又ハ市街道路街衢ノ一側ノ
 ミニ片寄ル可キ規則ニ背キ又ハ他ノ車ニ對シ驟
 避シテ市街堤塙道路小經ノ半ハヲ讓ル可キ規則
 ニ背キシ挽夫御者又ハ獸類ヲ挽ク者

第四 馬又ハ車ヲ挽カシメ或ハ物ヲ負載セシメ或
 ハ騎行ノ用ニ供スル獸類ヲ人ノ居住スル家屋ノ
 内部ニ馳セ入ラシメ又ハ馳セ入ルヲ見テ止メサ
 ル者又ハ車ニ物ヲ積載スル規則及ヒ車ノ進行ノ
 遲速或ハ方向ノ規則ニ背キシ者

公ケノ馬車ノ堅牢

其馬車ノ重サ

其馬車ニ物ヲ積載スル方法

其馬車ノ乗客ノ數及ヒ其安寧

其馬車内ニ乗載ス可キ客員及ヒ一員ニ付キ賃銀
 ノ幾許ナルヲ記スル事

其馬車ノ外部ニ其所有者ノ姓名ヲ記スル事

此等ノ事ニ管シタル規則ニ背キシ者

第五 市街道路街衢ニ於テ富場及ヒ其他ノ賭博ヲ
 爲ス場所ヲ設ケシ者

第六 (千八百五十五年五月五日廢ス) 價造シタル飲
 料ヲ販賣スル者但此條ノ規則ト人ノ健康ヲ害ス

可キ混合物ヲ交ヘシ時ハ誣誤罪ノ裁判所ニ於テ
更ニ重キ刑ヲ言渡ス可キ規則ト相觸ル、トナカ
ル可シ

第七 狂者又ハ猛獸ヲ放チタル其看守人又ハ人ニ
對シテ傷害ヲ加フルトナシト雖モ行人ニ犬ヲ噉
シタル者又ハ其犬ノ行人ヲ襲ヒ又ハ蹴スル時其
犬ヲ捉ヘ留メサル者

第八 石又ハ其他ノ堅キ物又ハ汚穢物ヲ人ノ家屋、
建造物、繞圍ニ抛チシ者又ハ故意ヲ以テ堅キ物又
ハ汚穢物ヲ人ニ抛チシ者

第九 既熟未熟ヲ論セス穀類、葡萄及ヒ他ノ菓實ノ
生シタル時ニ當リ其土地ノ所有者、入額所得者又

ハ借主ニ非ス又ハ其土地ヲ通行スルノ權ヲ有セ
ズシテ其地ニ潜入シテ通行シタル者

第十 何レノ時ヲ論セス種ヲ蒔キタル他人ノ地又
ハ穀類ヲ生シタル他人ノ地又ハ他人ニ屬スル所
伐ス可キ樹木ノ森林ニ車ヲ挽キ或ハ物ヲ載セ或
ハ騎行ニ用フル獸類ヲ通行セシメ又ハ通行スル
ヲ見テ止メサル者

第十一 贗造或ハ變造ニ非サル本國ノ貨幣ヲ時價
ニ從ヒ受取ルヲ肯セサル者

第十二 頓ニ起リタル不幸騷擾、破船、洪水、火災又ハ
其他ノ災厄又ハ盜賊、掠奪、現行ノ罪犯ノ時又ハ衆
庶ノ高聲ニテ罪犯ヲ呼フ時又ハ裁判言渡ニ從セ

犯人ヲ刑ニ處セント爲ス時ニ人ヨリ求メヲ受ケ止ムヲ得サルニ非スシテ勞動ヲ爲シ又ハ助ヲ爲スコトヲ肯セス或ハ怠リシ者

第十三 第二百八十四條及ヒ第二百八十八條ニ記シタル者

第十四 腐敗セシ食物及ヒ人ノ健康ヲ害スル食物

ヲ販賣スル者千八百五十一年三月廿七日廢ス

第十五 第三百八十八條ニ記スル景狀中ノ一ナク

シテ未タ地ヨリ刈取セサル穀穀又ハ其他土地ヨリ生スル有益ノ產物ヲ盜ミシ者

此等ノ者ハ六「フランク」ヨリ少カラス十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ旨渡ヲ受ク可シ

〇

此レ第二種罪目ナリ

第四百七十六條 前條ニ記シタル法ニ背キシ挽夫或ハ御者或ハ獸類ヲ挽ク者又ハ車及ヒ獸類ノ進行ノ運速方向ヲ定メ或ハ物ヲ積載スル規則又ハ公ケノ馬車ノ堅牢及ヒ其重サヲ定メ或ハ物ヲ積載スル規則其乘客ノ數其安寧ヲ定ムル規則ヲ犯セシ者又ハ贗造シタル飲料ヲ販賣スル者又ハ堅キ物及ヒ汚穢物ヲ抛チタル者ハ其時ノ景狀ニ因リ前條ニ記シタル罰金ノ外三日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルヲ得可シ

第四百七十七條

第一 市街道路街衢ニテ行フタル賭博及ヒ富ニ用

ヒシ卓子及ヒ器具ヲ類又ハ賭物ト爲シタル金銀
及ヒ品物ハ没取ス可シ

第二 販賣者ニ屬スル贗造ノ飲料ハ流シ棄ツ可シ

第三 風俗ヲ亂ス書畫ノ類ハ細ニ打碎ク可シ

第四 腐敗シタル食物又ハ健康ヲ害スル食物ハ之
ヲ棄ツ可シ

第四百七十八條 第四百七十五條ニ記シタル各人再

犯ノ罪アル時ハ五日ヨリ多カテサル時間禁錮ノ刑ニ

處セラル可シ

第四百七十五條ノ第五ニ記シタル者同罪ヲ再犯シテ

逮捕ヲ受ケタル時ハ其犯人ヲ輕罪裁判所ニ呼出シ六

日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ

處シ且十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ

多カラサル罰金ヲ言渡ス可シ

右三條ハ第四百七十二三四ノ三條ニ同シケレハ別ニ説

明チ須クス唯其事ノ漸ク重キニ至レルノミ

第四百七十八條再犯ノ場合ニ在テハ違警罪ノ變シテ輕

罪トナルニ至ル者アリ此レ賭博ノ如キハ事ノ輕カラサ

レハナリ然レモ是レ宜キヲ得タリトセス草案ハ此ノ如

キ資格ヲ變スルコトナシ唯拘留ノ期限ヲ延ヘテ二十日迄

ニ及ホスコトヲ得ルトナスノミ

第三款

第三種

三〇三二

第四百七十九條

第一 第四百三十四條ヨリ第四百六十二條ニ至ル迄ノ各條ニ記シタル場合ノ外故意ヲ以テ他人ノ動産ニ損害ヲ加ヘタル者

第二 狂者或ハ猛獸ヲ放チ又ハ車馬又ハ車ヲ挽キ、物ヲ載セ、騎行ノ用ニ供スル獸類ノ進歩ノ速ナルニ過キ又ハ其獸類ヲシテ惡キ方向ニ至ラシメ又ハ其獸類ニ過多ノ物ヲ積載シテ他人ニ屬スル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケタル者

第三 疎忽ニ兵器ヲ弄シ或ハ拙ニ兵器ヲ弄シ又ハ石及ヒ他ノ堅キ物ヲ抛チテ他人ニ屬スル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケタル者

第四 家屋或ハ建造物ノ舊敗シ或ハ破壊シ或ハ其修理ヲ怠リタルニ因リ又ハ官署ノ命令及ヒ土地ノ習慣ニテ定マリタル預備又ハ標識ヲ爲サス市街道路街衢ノ中央及ヒ傍側ニ障碍物ヲ置キ或ハ穴ヲ穿チ或ハ此類ノ事ヲ爲シタルニ因リ他人ニ屬スル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケタル者

第五 倉庫、舖店、操作場、商館、市場ニ於テ贗造ノ度量ノ具ヲ所有スル者但此條ノ規則ト輕罪裁判所ヨリ贗造ノ度量ノ具ヲ用ヒシ者ニ言渡ス可キ刑ト相觸ル、一ナカル可シ(千八百五十一年三月二十七日廢ス)

第六 法律ノ定則ト異ナリタル度量ノ具ヲ用フル

者法律ニ從ヒ公ケニ定メタル價目録ニ記セシ定價以上ニ麪包及ヒ肉類ヲ販賣セシ麪包ノ製造者及ヒ屠者

第七 卜筮或ハ占夢ヲ職業トナス者

第八 人民ヲ驚ス可キ害アル噪鬧又ハ夜間ノ噪鬧ヲ爲ス首從

第九 官署ノ命ニテ爲シタル貼示書ヲ除去シ又ハ破壞セシ者

第十 他人ニ屬シタル地内就中他人ニ屬シタル人工ノ草類ノ生シタル地又ハ葡萄園、楊ヲ種植セシ

地又ハ「カブリエール」木名橄欖、桑、石榴、橙及ヒ此類ノ樹木ノ萌芽ノ生シタル地又ハ其他人工ヲ以テ果

樹又ハ其他ノ樹木ノ萌芽ヲ生セシメタル地又ハ養樹園ノ中ニ如何ナル種類ヲ問ハス獸類ヲ牽キ

入レシ者

第十一 如何ナル方法ヲ問ハス道路ヲ毀テ又ハ其道幅ヲ侵占セシ者

第十二 一般ノ習慣ニテ許スコトナキ地ニ於テ官署

ノ許ヲ得ルコトナク道路ニアル草ノ生シタル土塊、泥土或ハ石類ヲ取り又ハ邑ニ屬スル地ニ於テ泥土、木材、石類ヲ取りシ者

此等ノ者ハ十一「フランク」ヨリ少カラヌ十五「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此レ第三種罪目ニ、違警罪中最重ナル者ニ係ル

第四百八十條

第一 前條ノ第三ニ記シタル場合ニ於テ他人ニ屬

シタル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケシ者

第二 贗造ノ度量ノ具ヲ所有スル者

第三 法律ノ定則ト異ナリタル度量ノ具ヲ用ヒシ

者及ヒ前條ノ第六ニ記シタル罪ヲ犯セシ麩包ノ

製造者及ヒ屠者

第四 占夢者

第五 人ニ害アル噪鬧及ヒ夜間ノ噪鬧ヲ爲ス首從

此等ノ者ハ其景狀ニ因リ五日ヨリ多カラサル時間禁

錮ノ刑ニ處スルコトヲ得可シ

第四百八十一條

第一 贗造ノ度量ノ具及ヒ法律ノ定則ト異リタル

度量ノ具

第二 卜筮又ハ占夢ノ職業ヲ爲スニ用ヒ又ハ用フ

此等ノ器具及ヒ衣服

此等ノ物ハ沒収ス可シ

第四百八十三條、第四百七十九條ニ記シタル場合ニ

於テ其各犯人ニ再犯ノ罪アルキハ五日ノ時間禁錮ノ

刑ニ處ス可シ

右三條ハ已ニ前ニ例アルヲ以テ細説ヲ須タス

説テ是ニ至レハ其要領ハ己ニ了知スルヲ得、願テ其罪

目次看ニ第一第二第三ノ三種ニ分テ隨テ刑ヲ三段ニ別
テリ而シテ地方ノ規則ニ背ケル者ハ第一種ニアリ地方ノ
規則ヲ看ル何ソ其レ輕キヤ是レ予ノ甚タ不可トナス所
ナリ草案ハ頗ル簡明宜キヲ得タリ

前三款ニ通スル規則

第四百八十三條 犯人前ノ十二月内ニ裁判所ノ管轄
内ニ於テ註誤ノ罪ヲ犯スニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル
後其裁判所ノ管轄内ニ於テ再ヒ其罪ヲ犯セシ時ハ此
篇ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ再犯ノ罪アリトス
此篇ニ記シタル如何ナル註誤罪ニ付テモ第四百六十
三條ノ規則ヲ通シ用フ可シ

此レ遺警罪ノ再犯タルハキモノヲ云フ
本條ノ十二月内及ヒ一裁判所ノ管轄内ト限セル者ハ本
ト違警罪ハ輕重罪ト同シカラス事ノ細ナル者ナレハ
テリ又其証ヲ取ルモ亦甚ク難シ
且ツ假令之ヲ證明スルヲ得ルモ長崎ニ於テ小便シタ
ル者ヲ再ヒ東京ニ於テ小便シタリ但同管内ニ於テ犯セル
罰スルモ別ニ利益ナケレハナリ但同管内ニ於テ犯セル
ハ自ラ情ヲ異ナシ例セハ屢掃除ヲ怠リ若クハ旅店
ノ點燈ヲ爲サ、ルカ如キ是也
第二項ノ意録ハ頗ル可ナリ違警罪ト雖モ其情狀ノ酌量
スヘキハ輕重罪ニ異ナルコトナシ例セハ婢僕ノ懈怠ニ係
リテ生入ノ罰ヲ受ケル場合ノ如キ是也

茲ニ治罪法第三百六十五條ノ末項ヲ看ヨ此レ數罪俱發
 一ノ重キニ從フ原則ヲ示ス
 然ルニ違警罪ハ之レニ依テ各故三件アレバ三件毎ニ
 之ニ罰ス
 筆者問有テ違警罪中ノニ係ルガ若シ重輕罪ト違警
 罪ト俱發タル時ハ如何
 答法律上ノ正面ニ觀シハ亦仍ホ各別ニ處スヘキナ
 然レモ輕重罪ヲ犯シニ就テ犯シタル違警罪即チ互ニ相
 牽連タル場合ニ在リハ之ヲ分テス
 例ニハ馬車ヲ點燈ヲサテ行人ヲ挽殺シタルノ類
 又問若シ違警罪ト輕重罪ト各別ニ發シタル者ハ如何

○ 其重キヲ先ニスヘキカ
 曰 定規ナシ重キヲ先ニスルヲ以テ宜シトセン

總規則

第四百八十四條 如何ナル事柄ニ付テモ刑法中其刑
 ヲ規定スルヲナク別段ノ法律及ヒ規則ニ其刑ヲ規定
 シタル時ハ裁判所ニ於テ其法律及ヒ規則ニ循フ可シ

○ 此レ必要欠ク可カラサルノ事ナリ凡ソ印刷ノ如キ鐵道
 ノ如キ電信、租稅、海關稅等ノ如キ別段ノ法律ヲ要スル者
 少ナシトセス故ニ必ス本條ノ設ケナカル可カラス

明治十二年五月一日版権届
警視廳御用書物師
東京日本橋區西河岸町十二番地
須原鐵二
同通壹丁目十五番地
北畠茂兵衛
同淺草區茅町二丁目
北澤伊八
同日本橋區吳服町十二番地
坂上半七
同通三丁目
丸屋善七
同京橋區銀座四丁目
博間本社

明治十二年五月一日版権届

警視廳御用書物師

東京日本橋區西河岸町十二番地

須原鐵二

發兌人

同通壹丁目十五番地

北畠茂兵衛

賣

同淺草區茅町二丁目

北澤伊八

同日本橋區吳服町十二番地

坂上半七

同通三丁目

丸屋善七

同京橋區銀座四丁目

博間本社

弘

書

橫濱辨天通貳丁目
師岡伊兵衛

西京寺町通り四條上
田中治兵衛

兵庫縣御用書林
神戸相生橋東詰
熊ヶ谷幸助

大坂高麗橋二丁目二十三番地
同支店

同心齋橋筋南久寶寺町
前川善兵衛

同本町四丁目
岡島真七

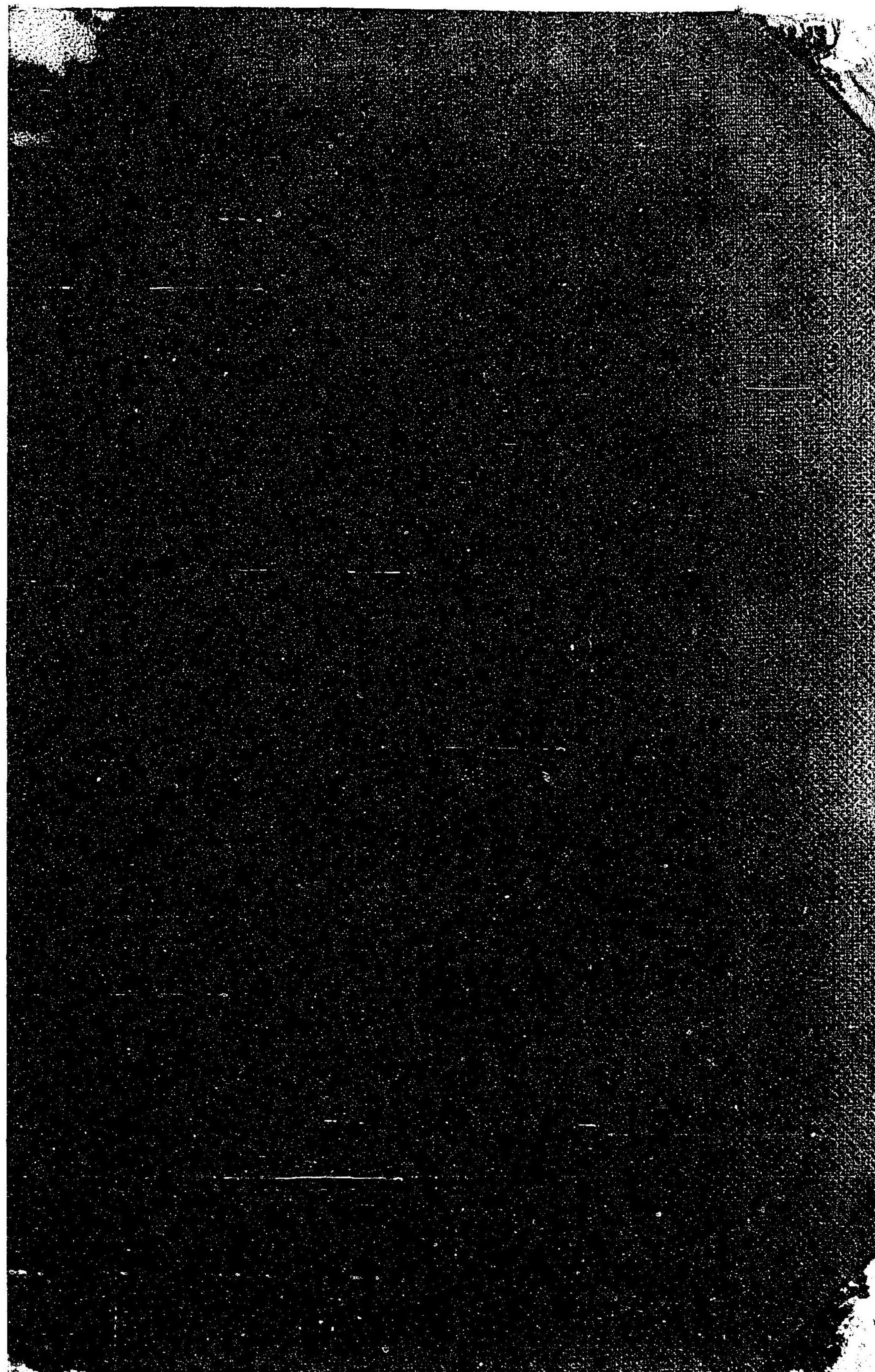
東京京橋區瀧山町七番地
瀧關社活版所

印刷

肆

14

36



14.7
36

東泉圖書				
五	三			
九	二	二		
冊	號	架	函	類

Ⓜ

